

熊取町埋蔵文化財調査報告第36集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XV

平成13年 3月

熊取町教育委員会

はしがき

古代から熊取野とよばれた本町域は現在に至るまで変わることなく「熊取」として独立した地域を保持し、恵まれた自然と貴重な文化遺産を今日に伝える町であります。

町内には重要文化財中家住宅をはじめ有数の文化財が知られていますが、他に現在41ヵ所を数える埋蔵文化財包蔵地があり、地下には貴重な遺構と遺物が埋蔵されています。

熊取町では昭和60年度から国庫等補助金を受けて発掘調査を実施するようになり、これまでに貴重な資料を得ることができました。

本書は平成12年度国庫補助事業として実施した発掘調査の実績報告書として作成したもので、今後多方面においてご活用いただけるよう願っております。

最後になりましたが、本年度現地での発掘調査にあたって御協力をいただきました土地所有者ならびに関係者各位に対しましてここで厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

熊取町教育委員会

教育長 甲田 太三郎

例　　言

1. 本書は、平成12年度に国庫補助金を受けて、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係が実施した熊取町遺跡群発掘調査における概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳を担当者として、平成12年4月1日に着手し、平成13年3月31日をもって終了した。
確認調査では、調査区をカラーリバーサルフィルムと白黒フィルムで撮影し、平板で調査区位置図（平面図）を作成、調査区壁面図を作成し、記録にとどめた。また測量作業後は必ず埋め戻して現場作業を完了した。
3. 本書は、報告書の作成の都合上、平成12年4月1日から平成12年12月29日までの発掘調査成果及び、平成11年度事業で昨年「熊取町埋蔵文化財調査報告第33集」で報告できなかった平成12年1月5日から同年3月31日までの発掘調査成果（2件）を掲載する。
4. 本書における図面の標高は、T. P.（東京湾平均潮位）を用いた。また方位は、地図以外については磁北を示すこととした。
5. 本書における図面の土色は、『新版標準土色帖』第10版（小山正忠・竹原秀雄編、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修1990年度版）を用いて目視により比定した。
6. 本書の作成及び発掘現場での作業にあたって、下記の調査員・調査補助員・作業員の参加を得た。
池上裕也、尾上智史、小野美雪、石松　直、関井澄子、前田公子、山本恵子
宇沢克之、太田敏治、岡本利市、坂本善成、辻野　勝、平阪博司
7. 平成12年度に発掘調査現場で使用した機械類は、株式会社竹口文化財から借上げた。
8. 本書の執筆は熊取町教育委員会生涯学習推進課文化財係考古学技師前川淳が行った。

目 次

第 1 章 はじめに	1
第 2 章 地理的環境と周知の遺跡	2
第 1 節 地理的環境	2
第 2 節 歴史的環境	2
第 3 節 周知の遺跡	4
第 3 章 調査成果の概要	6
第 1 節 朝代北遺跡 99－6 区の調査	7
第 2 節 七山東遺跡 99－3 区の調査	9
第 3 節 七山東遺跡 00－1 区の調査	10
第 4 節 七山東遺跡 00－2 区の調査	10
第 5 節 七山東遺跡 00－3 区の調査	11
第 6 節 七山東遺跡 00－4 区の調査	11
第 7 節 七山東遺跡 00－5 区の調査	12
第 8 節 東円寺跡 00－1 区の調査	14
第 9 節 東円寺跡 00－2 区の調査	14
第 10 節 東円寺跡 00－4 区の調査	15
第 11 節 東円寺跡 00－5 区の調査	16
第 12 節 東円寺跡 00－13 区の調査	21
第 13 節 大谷池遺跡 00－1 区の調査	22
第 14 節 大谷池遺跡 00－2 区の調査	22
第 15 節 大谷池遺跡 00－3 区の調査	24
第 16 節 大浦中世墓地遺跡 00－1 区の調査	25
第 17 節 金剛法寺跡 00－1 区の調査	26
第 4 章 まとめ	27

第1章 はじめに

平成12年度における、文化財保護法に基づく土木工事等による埋蔵文化財の発掘の届出
・通知件数は38件（平成12年12月29日現在）であり、昨年の同時期は22件であったことから、著しい増加傾向である。

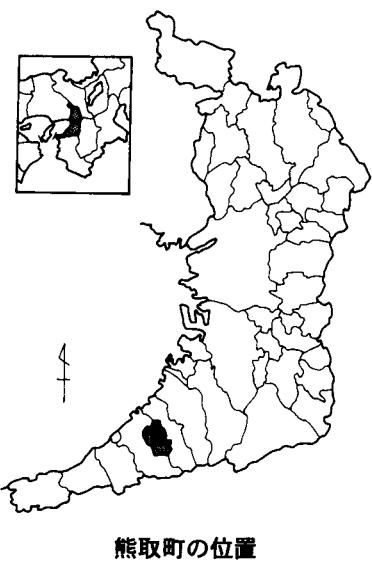
本書では平成12年度国庫補助事業として実施した、東円寺跡5件、大谷池遺跡3件、大浦中世墓地遺跡1件、七山東遺跡5件、金剛法寺跡1件と、平成11年度事業で実施した朝代北遺跡1件、七山東遺跡1件を合せた17件の発掘調査の成果について概要を報告する。

平成12年度国庫補助事業発掘調査一覧表

遺 跡 名	所 在 地	申 請 者 名	申 請 面 積	調 査 年 月 日
朝代北遺跡99-6区	朝代東二丁目2001-7	坂口 利晴	130.11m ²	20000128
七山東遺跡99-3区	七山東570-11,659-4、-5	山本 憲一	178.90m ²	20000308
七山東遺跡00-1区	七山東570-6,-7	小林 初茂	141.66m ²	20000719
七山東遺跡00-2区	七山東570-8,-9	笠岡 寛和	140.46m ²	20000809
七山東遺跡00-3区	七山東570-10	鎌田 順	99.36m ²	20001115
七山東遺跡00-4区	七山東346-16	金井 敏仁	197.80m ²	20001117
七山東遺跡00-5区	七山東346-14	淵之上 讓	192.32m ²	20001121
東円寺跡00-1区	紺屋二丁目1138-4	猪木 敬一	102.74m ²	20000421
東円寺跡00-2区	野田三丁目2298-1	小出 裕章	141.85m ²	20000424
東円寺跡00-4区	紺屋二丁目15-1	東 昇	170.23m ²	20000518
東円寺跡00-5区	野田二丁目2384-2	河畠 智裕	275.50m ²	20000616~30
東円寺跡00-13区	野田二丁目17-25	藤原 久雄	790.34m ²	20001226
大谷池遺跡00-1区	桜が丘二丁目16-3	平山 幸二	298.89m ²	20000425
大谷池遺跡00-2区	桜が丘二丁目19-3	児玉 博	142.12m ²	20000821
大谷池遺跡00-3区	桜が丘二丁目15の一部	甲田 達也	407.00m ²	20001107
大浦中世墓地遺跡00-1区	山の手台三丁目600-40	鯨島 淳一	190.21m ²	20000731
金剛法寺跡00-1区	久保414-9他3筆	山下 千津	約250m ²	20001010

第2章 地理的環境と周知の遺跡

第1節 地理的環境



熊取町は大阪府泉南地域の中央に位置し、貝塚市・泉佐野市の両市に囲まれた町である。町域は東西約4.8km、南北約7.8kmと南北に長い木の葉状を呈している。町域の総面積は約17.19km²を有する。地形による面積比を見ると、山地41%、丘陵24%、段丘23%、低地12%に区分され、山地・丘陵部が町域総面積の約3分の2を占めている。地域別に見ると、町南部においては、泉南地域の基本山地の和泉山地から派生する和泉丘陵とその縁辺部に発達する段丘部が多くを占めている。また北部では狭小ながらも河川の対岸に洪積地が形成されている。町域に水源を持つ河川は雨山川・和田川・大井出川・見出川の4水系が存在している。いずれも町南部の山間部を水源としており南部から北部へ向かって流下し、泉佐野市を経て大阪湾に注ぎ込んでいる。

本町が瀬戸内式気候区の東端に位置しているために年間降雨量が少量であることから、古くから町域一帯に多くの灌漑用の溜め池を目にすることができる。

第2節 歴史的環境

町内の遺跡は現在41カ所を数える。

縄文時代以前の遺構は発見されていないが、東円寺跡の所在する熊取町野田の町立中央小学校で縄文時代早期の有舌尖頭器と石鏃が検出されているので、東円寺跡は縄文時代からの複合遺跡である。

弥生時代の遺跡も発見されていない。JR熊取駅のある大久保における駅前整備事業に伴う平成元年の発掘調査では畿内第V様式を示す土器が大量に検出され大久保E遺跡となつたが、その土器は古墳時代初頭の所産と考えられている。

古墳時代の遺跡として、町中央部の山の手台住宅に五門古墳と五門北古墳が記されているが、これらは開発で消滅している。しかし開発では副葬品や古墳の石材等が発見されたということもなく、これらが古墳であった可能性はほとんどない。

飛鳥時代については、平成10年度の久保城跡98-1区の調査で複数の溝が検出され、その中から飛鳥V様式といわれる土師器や須恵器が出土した。

奈良時代についてはこれまで東円寺跡87-1区の調査で建物4棟と土壙、須恵器、土師器が検出されたのみにとどまっていたが、平成11年7月熊取町七山で西暦750年以降の奈

良時代を示す多くの須恵器が宅地開発の発掘調査で検出され、熊取町第41番目の「七山東遺跡」となった。

平安時代については、野田の熊取町役場付近に想定されている東円寺の創建が、発掘調査で発見された軒瓦の比較考察から平安時代末とされている。また平成8年度には大久保から紺屋にかけての私立病院の発掘調査で黒色土器や須恵器、土師器が自然流路内から検出されている。

鎌倉時代以降中世に関しては、熊取町内の遺跡のほとんどが同時代を中心とした様相を示している。野田の東円寺跡、久保の久保城跡、大浦の大浦遺跡、紺屋の紺屋遺跡、七山の七山東遺跡では瓦器を豊富に含む包含層が存在しており、建物・溝といった遺構も検出されている。

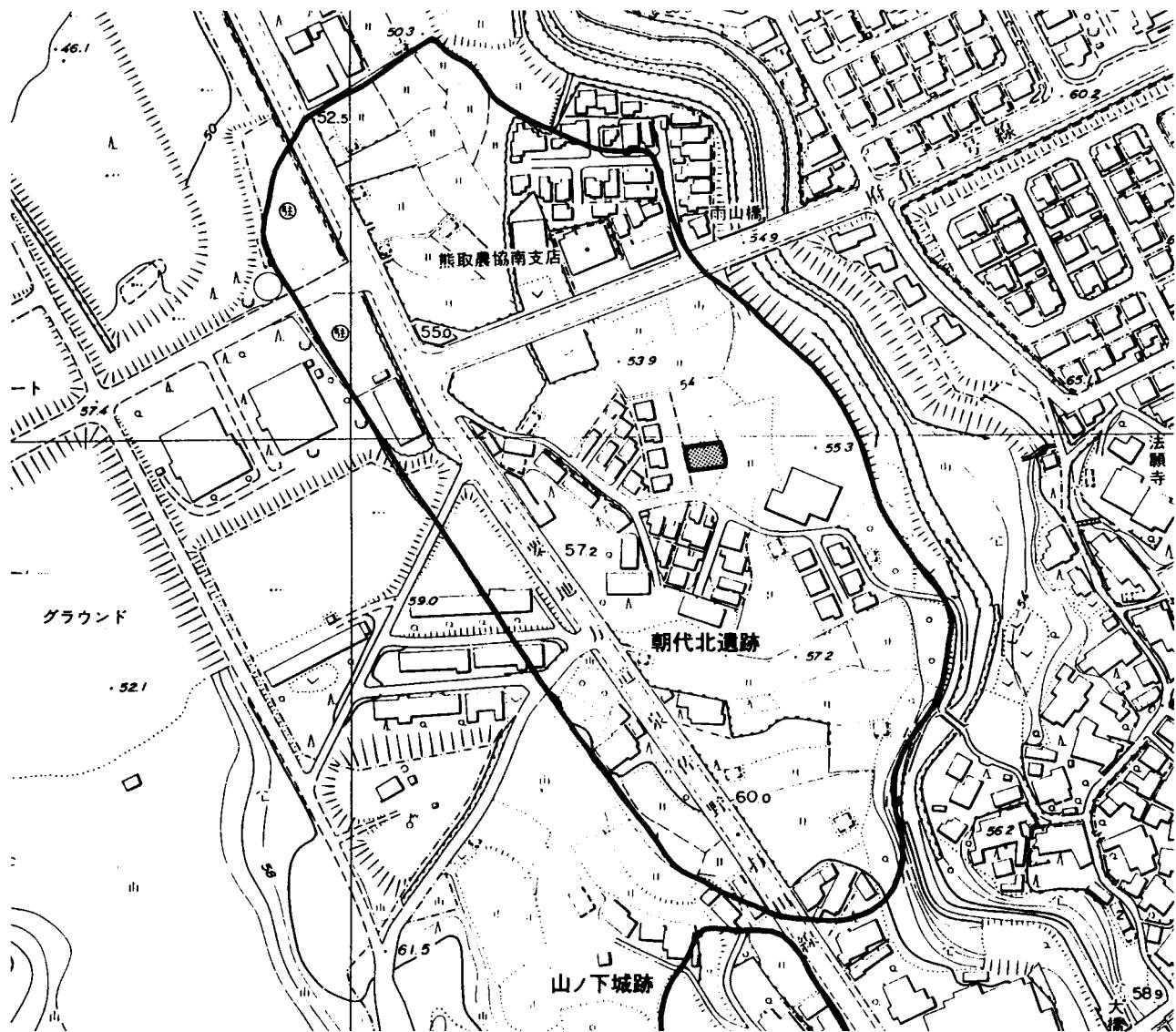
熊取町遺跡分布図



第3節 周知の遺跡

周知の遺跡一覧表

No.	周知の遺跡名	種類	時代	地目	立地	主な成果等
1	降井家書院	建造物	室町～江戸	宅地	平地	国指定重要文化財
2	中家住宅	建造物	室町～江戸	宅地	平地	江戸期から明治期頃の陶磁器等出土
3	来迎寺本堂	寺院	鎌倉	宅地	丘陵腹	15～16世紀の土師器を検出
4	池ノ谷遺跡	散布地	旧石器	水田	平地	
5	甲田家住宅	建造物	江戸	宅地	平地	
6	東円寺跡	寺院跡	弥生～江戸	宅地	平地	縄文・奈良・鎌倉～室町・江戸の複合遺跡
7	城ノ下遺跡	城郭跡	室町	宅地	丘陵	
8	成合寺遺跡	墓地	室町	畠地	丘陵腹	14世紀代の600基以上の土壙墓郡等検出
9	高蔵寺城跡	城郭跡	室町	山林	山頂	土塁・堀切等の構築物を確認している
10	雨山遺跡	城郭跡	鎌倉	山林	山頂	月見ノ亭・馬場・千疊敷の地名が残る
11	五門遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	丘陵	須恵器等を採取するも現在消滅
12	五門北古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
13	五門古墳	古墳	古墳	宅地	丘陵	古墳参考地、現在消滅
14	大浦中世墓地	墓地	室町	墓地	平地	享徳4年銘(1445)の五輪塔の地輪出土
15	久保城跡	城郭跡	鎌倉	水田	平地	的場・矢ノ倉等の字名、瓦器片多数出土
16	山ノ下城跡	城郭跡	鎌倉	宅地	平地	
17	大谷池遺跡	散布地	古墳～江戸	池	平地	
18	祭礼御旅所跡	祭礼跡	室町	山林	丘陵	五門・紺屋共同墓地
19	正法寺跡	寺院跡	鎌倉	宅地	丘陵	
20	小垣内遺跡	寺院跡	江戸	道路	丘陵	毘沙門堂跡、現在消滅
21	金剛法寺跡	寺院跡	室町	宅地	平地	大森神社神宮寺、現在消滅
22	鳥羽殿城跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	
23	墓ノ谷遺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵腹	
24	花成寺跡	寺院跡	室町	山林	丘陵	
25	降井家屋敷跡	屋敷跡	室町～江戸	宅地	平地	敷地を区画する溝や江戸初期の陶磁器等
26	大久保A遺跡	散布地	江戸	宅地	平地	
27	下高田遺跡	条里跡	鎌倉	田	平地	
28	大久保B遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初中心の遺物出土
29	紺屋遺跡	散布地	古墳～江戸	宅地	平地	奈良～平安期の河川跡検出
30	白地谷遺跡	散布地	室町～江戸	田 谷		
31	大久保C遺跡	散布地	室町～江戸	宅地	平地	
32	千石堀遺跡	城郭跡	室町	山林	丘陵	天正年間(1573～92) 雜賀衆徒の城跡
33	口無池遺跡	散布地	平安～江戸	宅地	平地	平安末～鎌倉初の遺構・遺物検出
34	大久保D遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
35	大浦遺跡	散布地	鎌倉～江戸	田	平地	13～14世紀の瓦器等出土
36	久保A遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	
37	大久保E遺跡	集落跡	弥生～江戸	宅地	平地	弥生末～古墳初の遺物多数出土
38	久保B遺跡	集落跡	鎌倉～江戸	宅地	平地	13～14世紀の瓦器等出土
39	中家住宅周辺遺跡	集落跡	室町～江戸	宅地	平地	江戸期以降の陶磁器等多数出土
40	朝代北遺跡	散布地	鎌倉～江戸	宅地	平地	鎌倉時代以降の遺物の包含層
41	七山東遺跡	散布地	古墳～室町	宅地	平地	奈良時代の須恵器を多量に含む包含層



朝代北遺跡99-6区 調査地点位置図

第3章 調査成果の概要

朝代北遺跡について

朝代北遺跡は熊取町の中南部、近年大阪体育大学が設立された南部の丘陵地帯に迫る低地端部の朝代集落の北に位置している。本町には南北方向に西から雨山川、和田川、大井出川、見出川の4河川が北流しているが、本遺跡のある低地は、4河川のうち最西の雨山川の左岸流域に南北に長く展開している。この流域の低地には、住友電気工業熊取製作所や京都大学原子炉実験所などの大規模施設が建設されているが、これまで北部の大久保A遺跡という狭小な遺跡以外に遺跡は一切発見されていなかった。平成9年度のコンビニエンスストアの建設に伴う試掘調査で初めて中世の包含層が検出されて、熊取町第40番目の「朝代北遺跡」として周知され、以後数度にわたる確認調査等でさらにその範囲を拡大した。

第1節 朝代北遺跡 99-6区の調査

調査地 朝代東二丁目2001-7

調査期間 平成12年1月28日

位置と環境

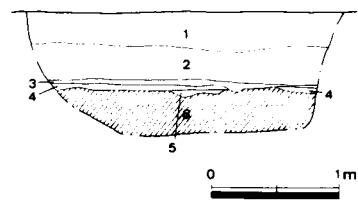
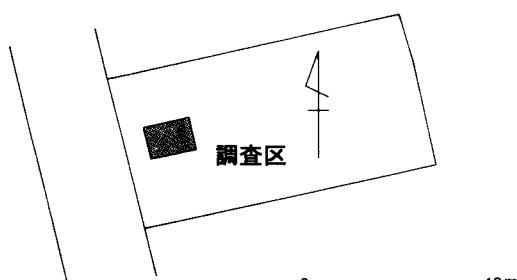
JR熊取駅方向から南へ主要地方道泉佐野・打田線を下って、京都大学原子炉実験所前を過ぎた辺りで、府住1号線と交わる三叉路に熊取農協南支店があるが、ここから真東へ細い私道に入った住宅街の一角が調査地点である。従来周辺地域は田畠が広がっていたが、近年ミニ開発が盛んに行われ、道路面に合わせるよう盛土による造成が実施されたなどしたため、旧状を大きく失った住宅地になっている。平成11年度には今回の個人住宅建設工事と全く同様の住宅建設工事に伴う確認調査を実施した経緯があり、室町中期頃の包含層を確認している。

調査内容

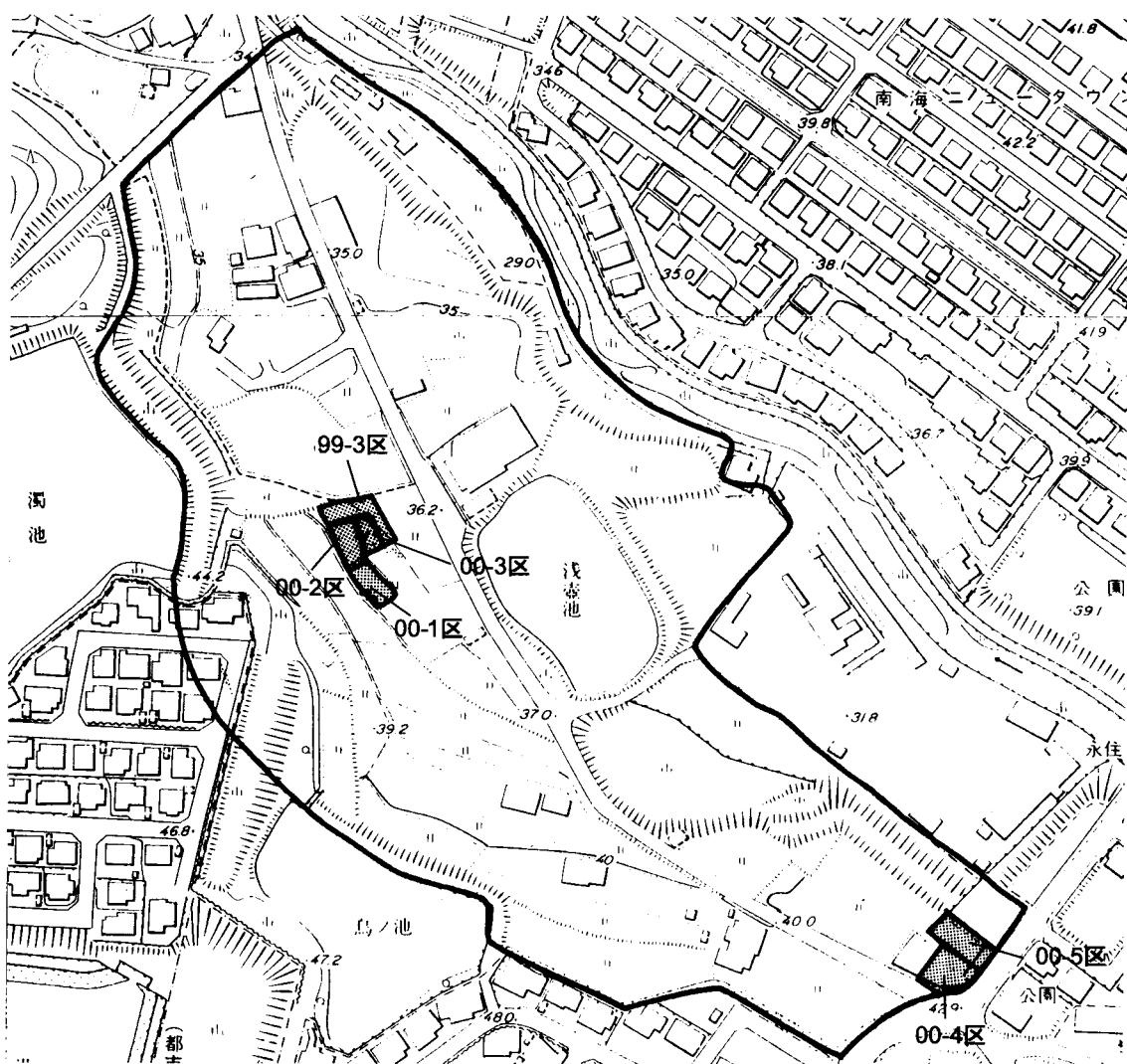
工事は個人住宅建替えによる新築工事で、図のように調査区を設定して、機械掘削による確認調査を実施した。現地表面下-0.7m掘削すると黄褐色粘質土の地山まで到達した。壁面図に示したとおり、GL下-0.3m～0.7mの間は比較的新しい耕作土が3層観られる。遺構や遺物はなかった。

小 結

朝代北遺跡が発見されたのは平成10年度であり、以来合計約5件の調査を実施しているが、今のところ瓦器や土師器など中世の土器を含む包含層が必ず出しているにとどまっており、建物や溝など遺構が検出されたことはない。今回もほぼ同様のデータを得たが、今後小規模な専用住宅の建設工事だからといって、安心してはならない。またできるだけ遺構の検出を目指して、遺跡の性格の究明を急ぎたいところである。



朝代北遺跡 99-6区 南壁
1.擾乱
2.NS/
3.N7/
4.10YR5/2
5.10YR7/6
灰色 明黄褐色
灰
砂質土（旧耕作土）
砂質土（底土系）
砂質土
砂質土（地山）



七山東遺跡 調査地点位置図

七山東遺跡について

熊取町最北の七山にはこれまで遺跡は確認されていなかった。平成11年7月図の場所での宅地開発に伴う試掘調査を実施した際、奈良時代第3四半期から第4四半期頃のものと考えられる須恵器が数多く出土したために、新たに熊取町第41番目の遺跡「七山東遺跡」として周知されるようになった。

ここに存在する包含層は、8世紀後半のものの上に、瓦器を含む中世のものが重なっており、明瞭に分層できる。土器分類の結果から、奈良時代の後半に開発が開始され、僅か50年程度の短い期間が経過した頃、なんらかの理由で一旦放棄された場所である可能性が指摘できる。その後は熊取の他の地域と同様、中世になって再び開発され始めたようである。（熊取町埋蔵文化財調査報告第35集で七山東遺跡99-1区の調査を報告済）

平成12年12月現在既に本遺跡内では合計8件程の確認調査を実施しているが、建物や溝などの明確な遺構は検出していない。今後は本遺跡内の調査で遺構を確認し、本遺跡の性

格を早急に究明しなくてはならない。

本遺跡は見出川の西岸、低丘陵が川に迫る狭い平地部に位置している。周辺の状況からして大きな集落があったとは思えない。奈良時代に耕地として僅かに開かれた土地に営まれた小集落か、もしくは低丘陵裾部を利用して築かれた登り窯があつたのではないか。

第2節 七山東遺跡99-3区の調査

調査地 七山東570-11,659-4,659-5

調査期間 平成12年3月8日

位置と環境

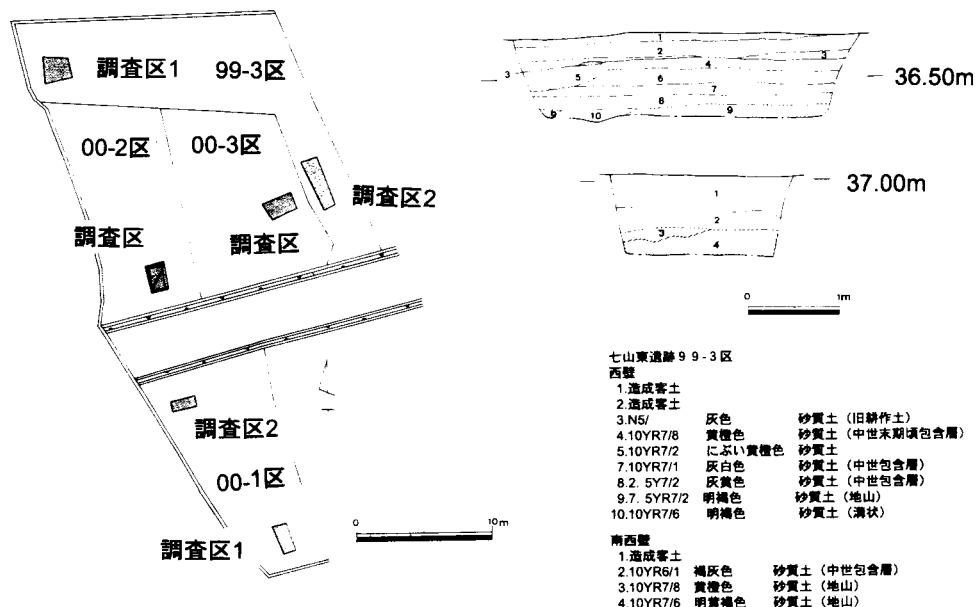
調査地点は平成11年7月に宅地造成工事に伴う受託事業として実施した七山東遺跡99-1区の発掘調査の開発区域の中であり、造成済みの申請地に個人専用住宅を建設する工事に伴う確認調査である。

調査内容

工事は個人住宅建替えにおける新築工事で、図のように配管設置予定部分に対して調査区を設定し、機械掘削を実施した。GL下-0.3m付近から中世の包含層が4層あり、GL下-0.8m付近で地山の黄褐色粘質土に到達する。地山面上には深さ約0.3m、幅約0.3m程度の断面V字状の落込みを1基検出した。包含層から須恵器や土師器の小破片を数点検出したが、図化はできなかった。

小 結

今回の確認調査では、昨年度の私道設置部分における本調査と全く同様のデータを得た。



第3節 七山東遺跡00-1区の調査

調査地 七山東570-6,570-7

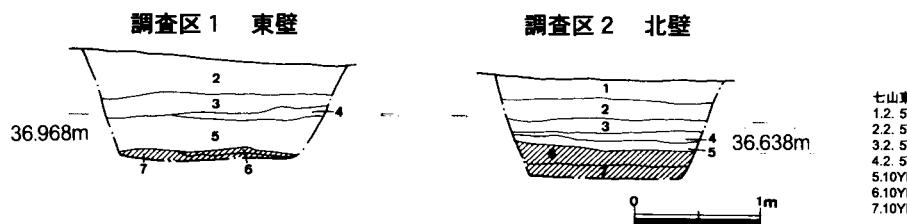
調査期間 平成12年7月19日

位置と環境

調査地点は平成11年7月に宅地造成工事に伴う受託事業として実施した七山東遺跡99-1区の発掘調査の開発区域の中であり、造成済みの申請地に個人専用住宅を建設する工事に伴う確認調査である。

調査内容

工事は個人住宅建替えにおける新築で、図のように2ヵ所の調査区を設定して、機械掘削を実施した。現地表面下-0.4~0.8m間に包含層が3層存在し、その最下層の古代層はGL下-0.5以下に観られ、層厚は最大0.25mである。



七山東遺跡00-1区 調査区1東壁 調査区2北壁	
1.2. 5Y5/3	黄褐色
2.2. 5Y5/1	灰色
3.2. 5Y7/6	明黄褐色
4.2. 5Y6/3	にぶい黄色
5.10YR6/3	にぶい黄褐色
6.10YR8/4	にぶい黄褐色
7.10YR7/8	黄褐色
粘土質(造成客土)	
砂質土(旧耕作土)	
砂質土(中世包含層)	
砂質土(中世包含層)	
粘質土(地山)	
粘質土(地山)	

小結

七山東遺跡99-1区の本調査成果を裏付けるデータを得た。奈良時代後半の包含層を中心とする七山東遺跡の遺跡範囲はどこまで続くのであろうか。また早くなんらかの遺構を検出して遺跡の性格を明らかにしていきたい。

第4節 七山東遺跡00-2区の調査

調査地 七山東570-8,570-9

調査期間 平成12年8月9日

位置と環境

調査地点は平成11年7月に宅地造成工事に伴う受託事業として実施した七山東遺跡99-1区の発掘調査の開発区域の中であり、造成済みの申請地に個人専用住宅を建設する工事に伴う確認調査である。

調査内容

工事は個人住宅建替えにおける新築で、調査区を設定して、人力掘削を実施した。調査区ではGL下-0.7mまで搅乱、以下20cmの包含層が観られた。GL下-0.9m以下は地山であるが、包含層直下に溝状の落ち込みSD1が一条検出された。この溝状の落ち込みは北東-南西方向で、上面で幅約1.3m程度、底部で幅約0.5m程度、断面逆台形で深さは約0.1mを計

測した。埋土は一層で、地山の黄褐色粘質土とはほとんど見分けられない色相を示す。

小 結

埋土の観察から、溝状落ち込みは水の流れていた溝には見えにくく、断面の形状から自然のものとは考えにくい。

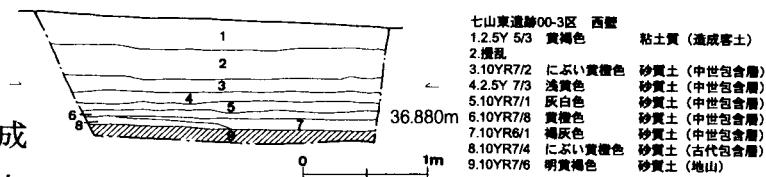
第5節 七山東遺跡00-3区の調査

調査地 七山東570-10

調査期間 平成12年11月15日

位置と環境

調査地点は平成11年7月に宅地造成工事に伴う受託事業として実施した七山東遺跡99-1区の発掘調査の開発区域の中であり、造成済みの申請地に個人専用住宅を建設する工事に伴う確認調査である。



調査内容

工事は個人住宅建替えにおける新築で、調査区を設定して、機械掘削による調査を実施した。GL下-0.5~0.9mの間に中世包含層が3層、古代包含層が1層観察される。古代層はにぶい黄橙色の砂質土で、層厚約10cmである。遺物として須恵器破片などを若干検出したが、遺構はみられなかった。

小 結

隣接地での調査データとほぼ同様の調査結果を得た。

第6節 七山東遺跡00-4区の調査

調査地 七山東346-16

調査期間 平成12年11月17日

位置と環境

調査地点は平成11年7月に宅地造成工事に伴う受託事業として実施した七山東遺跡99-1区および本編00-1~00-3区から東へ200mの距離がある。周辺は昭和50年代後半頃から大規模に開発された自由が丘と若葉台住宅街がひろがり、申請地には店舗が営まれていたが、今回個人専用住宅を建設するという。

調査内容

工事は個人住宅の新築工事で、図のように2カ所の調査区を設定して、機械掘削を実施した。現地表面下-1.8mまで掘削したが、旧造成時の大幅な盛土があるのみだった。

小 結

申請地の北側は見出川で、申請地は河岸である。河岸は急傾斜面を呈しており、近年住宅地造成の際におよそ5~10m程度の盛土をしたものと考えられる。従って申請地付近では余程の掘削をしない限り本来の旧地表面に到達することはないと判明した。

第7節 七山東遺跡00-5区の調査

調査地 七山東346-14

調査期間 平成12年11月21日

位置と環境

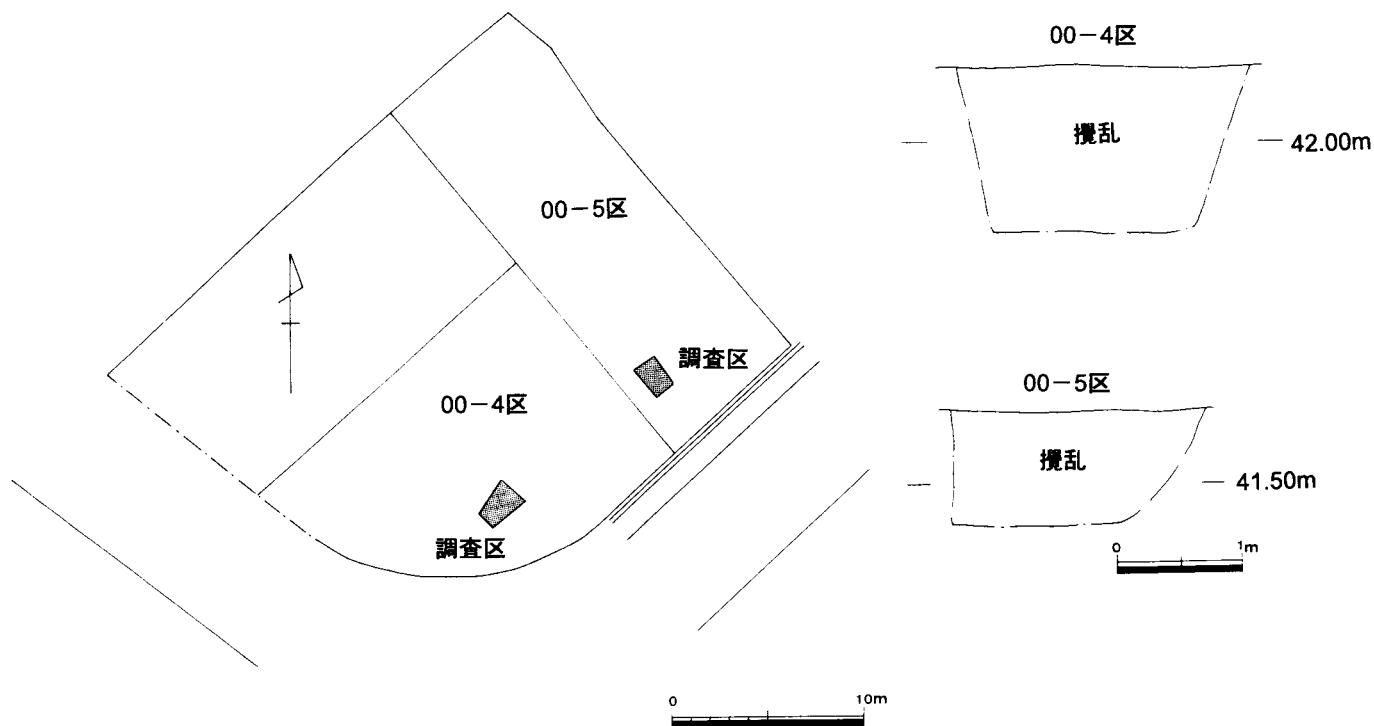
調査地点は00-4区の北隣である。

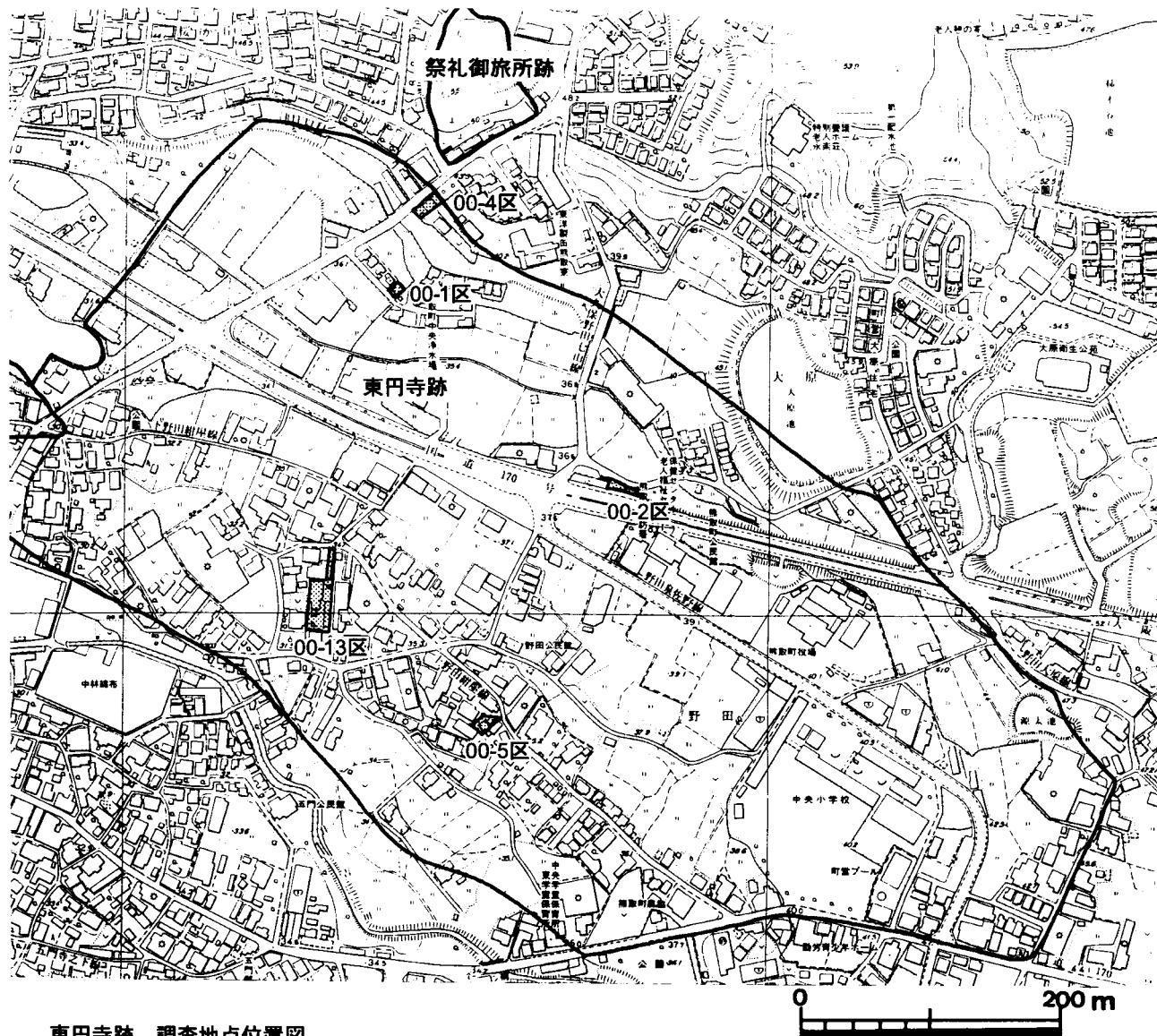
調査内容

工事は個人住宅の新築工事で、図のように調査区を設定して、機械掘削を実施した。現地表面下-1.5m掘削したが、大幅な盛土を検出するにとどまった。

小 結

00-4区よりは道路寄りの場所であったので、旧地表面が検出されるかと思われたが、00-4区と同様のデータを得るにとどまった。





東円寺跡 調査地点位置図

東円寺跡について

位置と環境 東円寺は、野田地区の熊取町役場の南側一帯にあったとされる寺院跡である。文献では元来「東曜寺」と称していたとされる。これまでの発掘調査では平安時代末期頃と考えられている軒丸・軒平瓦が出土したのをはじめ、瓦器、土師器に加えて須恵器や縄文時代の石器など多くの遺物が出土しており、複合遺跡としての性格を呈している。今日まで確実に寺院と判る遺構は検出されていないため、伽藍配置等は全く不明である。

第8節 東円寺跡00-1区の調査

調査地 紺屋二丁目1138-4

調査期間 平成12年4月21日

位置と環境

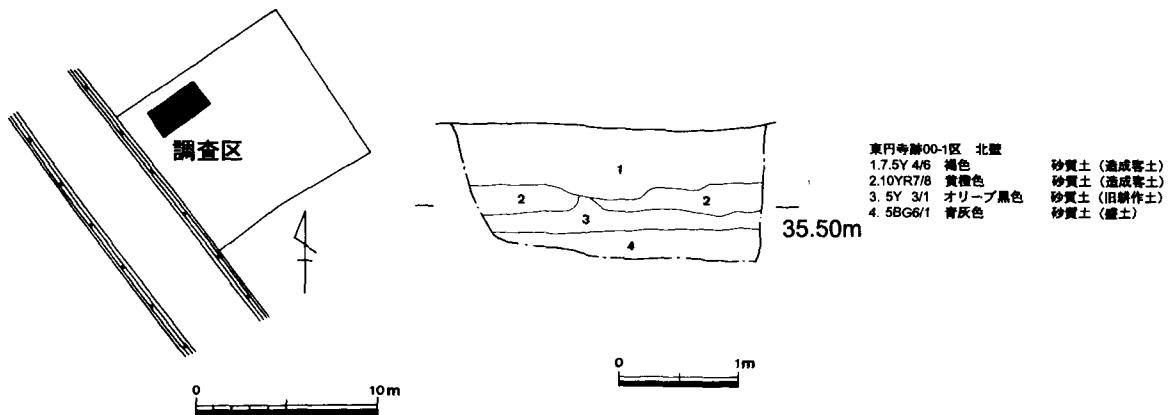
今回の調査地点は遺跡の西北端で、外環状線の紺屋交差点を北へ曲がり、町道五門七山線を北上して七山へ向かうまでの住宅街に所在する。東円寺のあったとされる熊取町役場付近からは標高差にして10mほど高い丘陵上で、寺院とは異なった遺構が検出される可能性がある。周辺ではこれまで数度個人住宅建設に伴う国庫補助の発掘調査が行われたが、遺構・遺物は一切確認されていない。

調査内容

工事は個人住宅建替えにおける新築で、図のように調査区を設定して、機械掘削を実施した。現地表面下-1.1mまで掘削するも、造成時の大幅な盛土のみであった。遺構・遺物は一切検出しなかった。

小結

東円寺域から離れているためか成果がなかった。かつて低丘陵南面に大幅な盛土をする造成工事をした痕跡があり、大幅な掘削をしない限り、旧地表面以下の層は検出できない。



第9節 東円寺跡00-2区の調査

調査地 野田三丁目2298-1

調査期間 平成12年4月24日

位置と環境

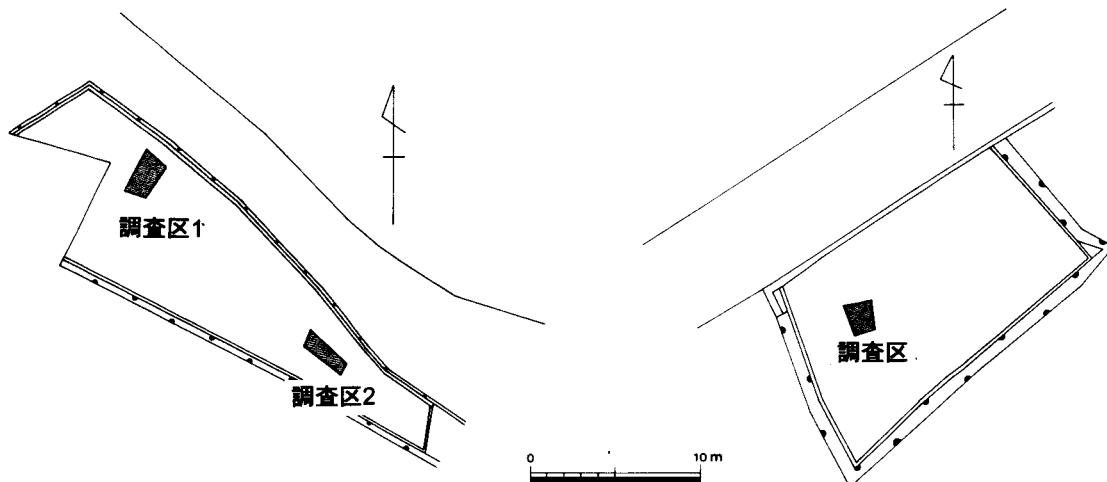
調査地点は東円寺跡という遺跡の範囲では中北部に位置するが、実際東円寺として推定される寺院の区域からは北西へ少し外れていると考えられる。現在は大阪外環状線国道170号線を挟んで熊取町公民館や消防署の北向い側に位置しており、周囲には水田が分布している。また昭和59年度の外環状線の設置に伴う大阪府教育委員会による本調査時には、申請地のすぐ南西部分で中世の掘立て柱建物1棟が検出されているので注意を要する。

調査内容

調査は2ヵ所の調査区を設定して機械掘削によって実施した。調査区1では、GL下-0.3～-0.5m付近に中近世の包含層が2層観られる。以下は地山で遺構はない。調査区2はGL下-0.4mまで近年まで行われた耕作土があり、以下は造成の盛土が観られる。

小 結

調査区1では、若干中世頃まで溯れる層を検出できたが、建物跡などの遺構は観られなかった。調査区2では昭和59年の発掘調査掘削後、耕作が継続された様子が観察された。



第10節 東円寺跡00-4区の調査

調査地 紺屋二丁目15-1

調査期間 平成12年5月18日

位置と環境

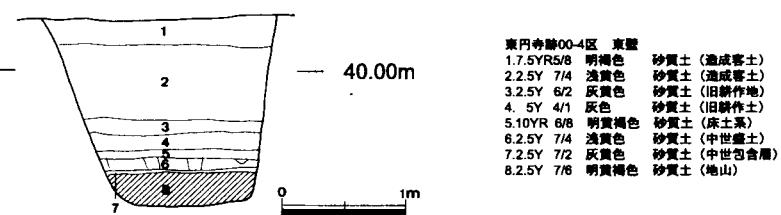
先述の00-1区から南へ僅か20mの地点である。付近はここ数十年來のミニ開発でできた住宅が低丘陵の斜面上に密集している。

調査内容

調査区を設定して機械掘削による調査を実施し、図のとおりの壁面土層データを得た。色調の相対的比較観察より、現地表面下-0.7m付近に中世期の層が存在していることが確認された。地山となる黄褐色粘質土はGL下-0.9m以下である。調査区内では遺物を検出しなかった。

小 結

中世期の層が残存していることには驚かされた。これまで紺屋から新野田へと続く低丘陵部では度重なる確認調査を実施したが、埋蔵文化財が確認されたケースはなかった。遺跡の範囲指定も疑問視されていたが、今回中世期の層が確認されたことによって、東円寺とは少し隔てて新たな中世期の遺跡・遺構としての認識をするべきであろう。



第11節 東円寺跡00-5区の調査

調査地 野田二丁目2384-2

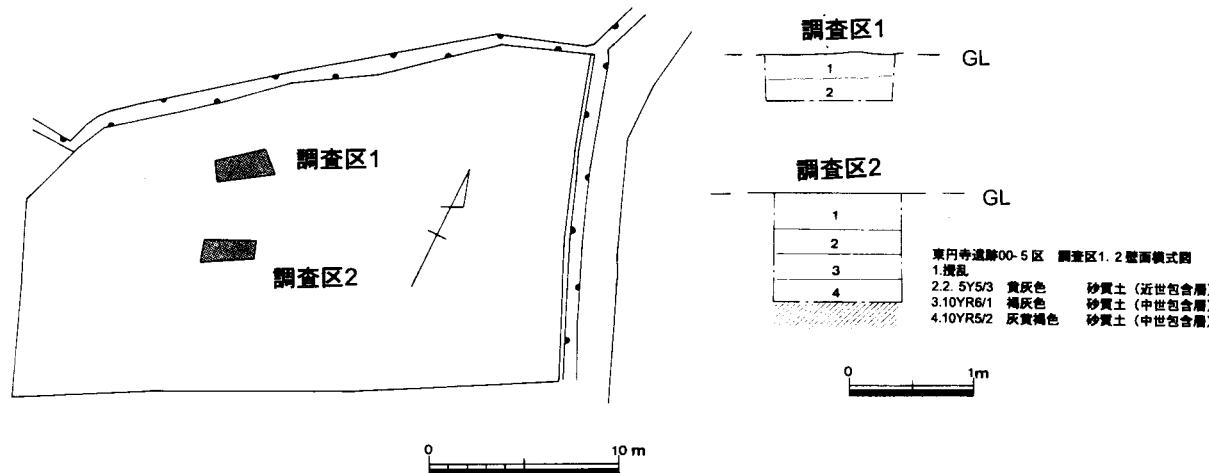
調査期間 平成12年6月16日

位置と環境

調査地点は野田集落の只中にあり、古くから大きな屋敷が多い平坦な場所である。地図上では、熊取町役場からまっすぐ南方向に下がった大字「大門」に近い。周辺ではこれまで幾度と確認調査を実施しており、多くの瓦器や瓦破片、遺構を検出している。

調査内容

調査は4ヶ所の調査区を設定し、機械掘削により実施した。地表から約0.5m以下に層厚約20cmの中世包含層が1層確認できる。またGL下-0.7~0.9m付近に溝状の落ち込みが観られ、この中から下表のとおり多数の土器破片が検出された。調査面積の狭小さに比して多くの遺物の検出を見たため、さらなる本格的な発掘調査も検討したが、予定建築物の基礎工事が遺物包含層に及ばないために、今回は埋没保存することとした。

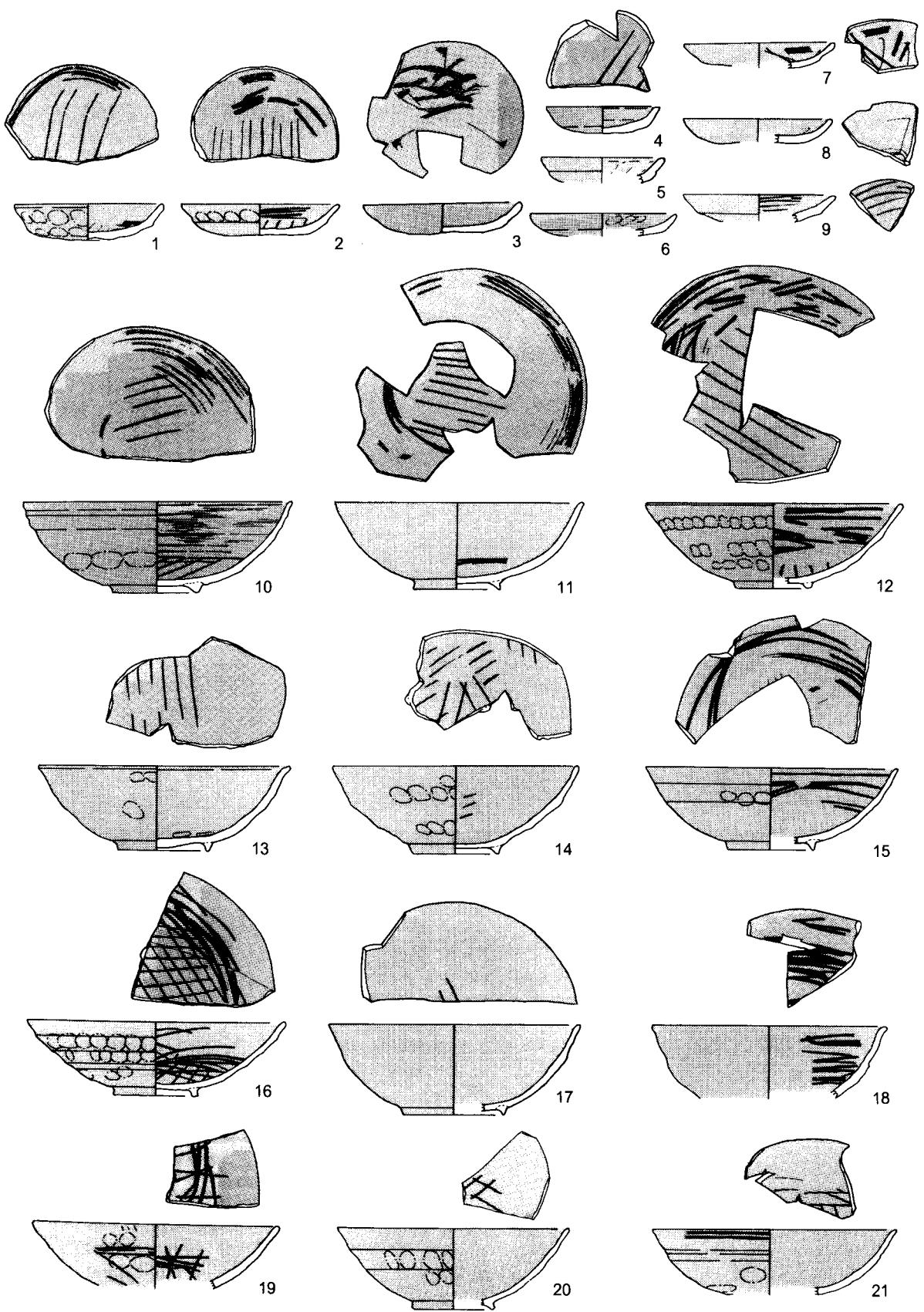


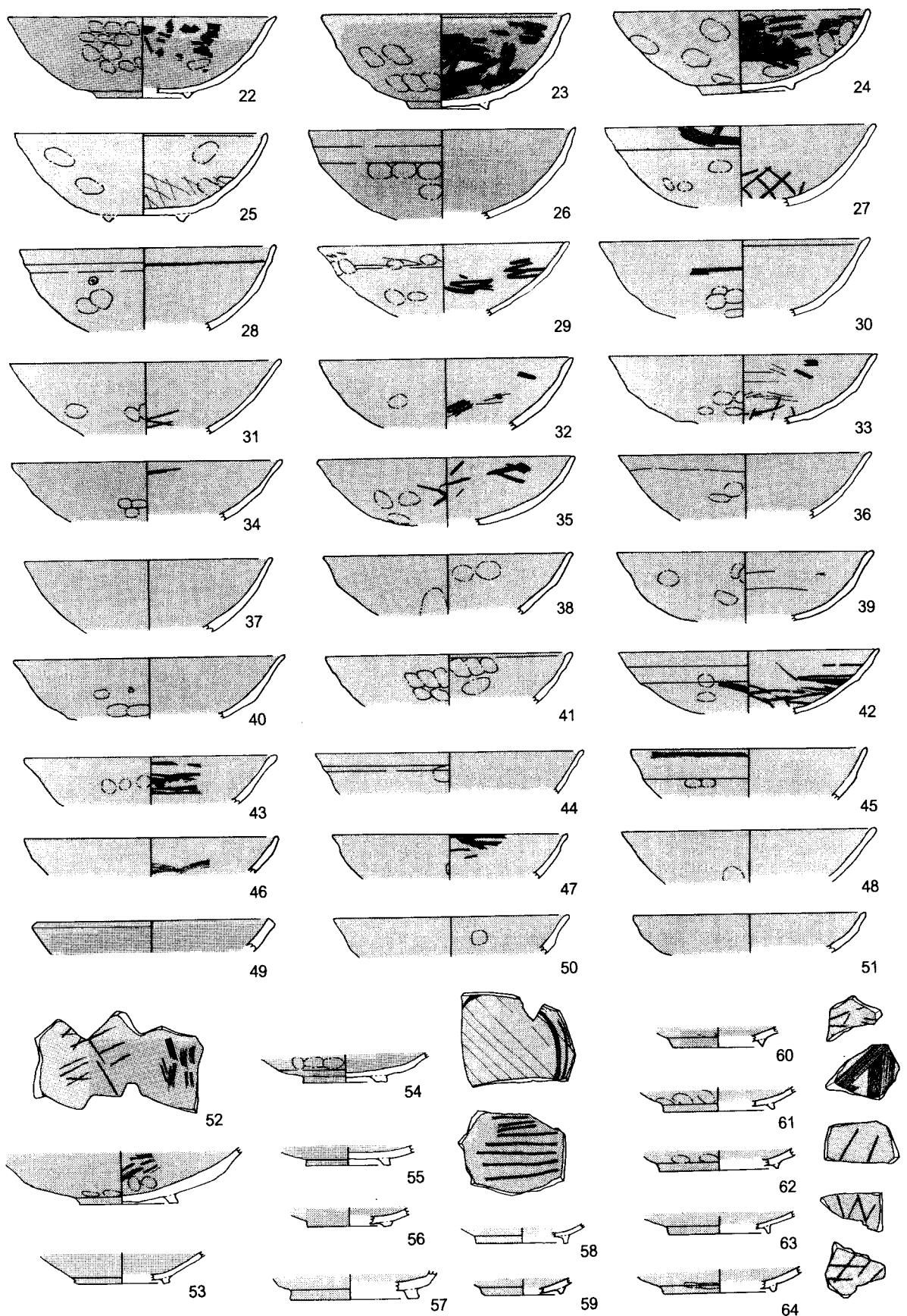
遺物

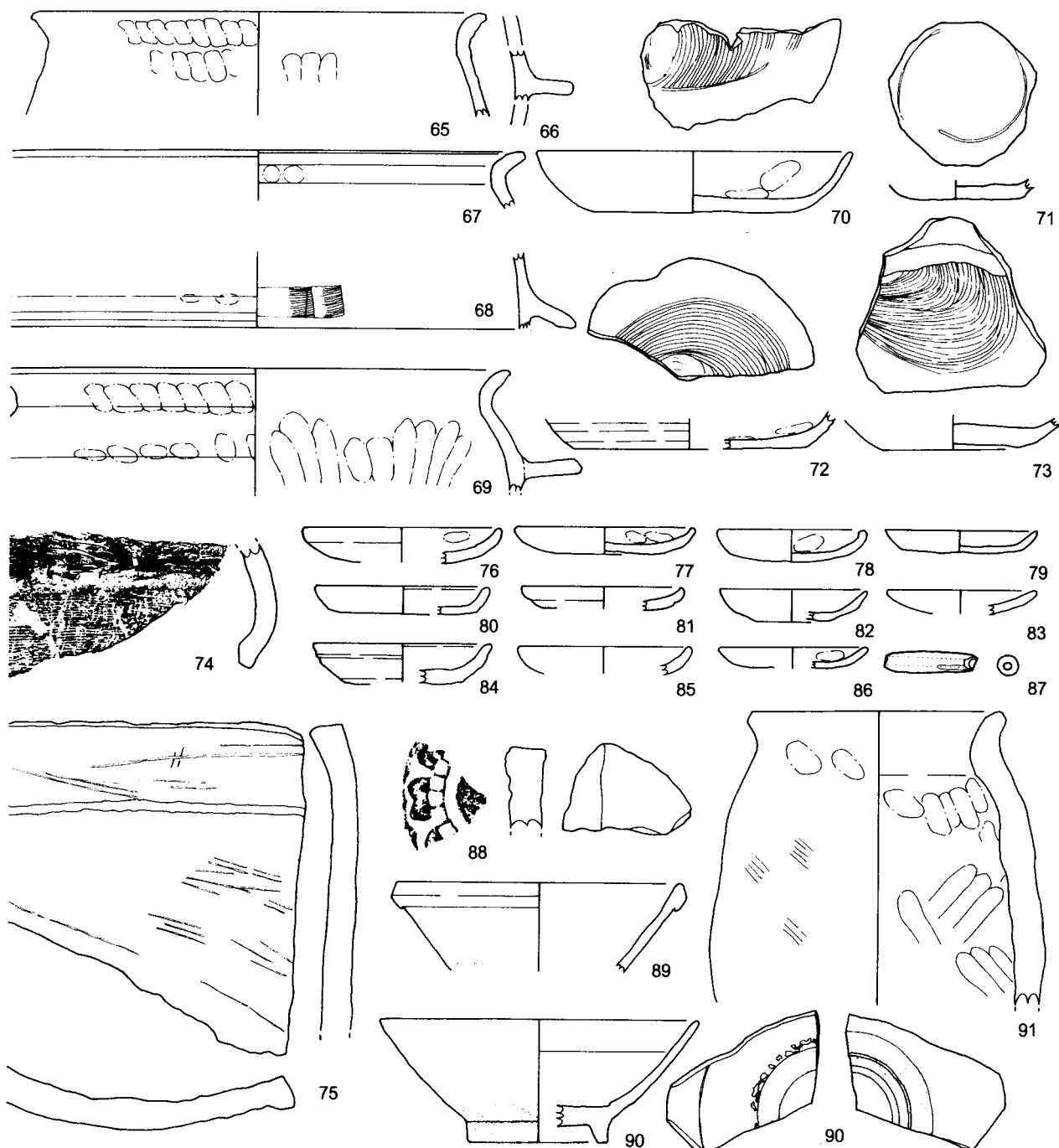
瓦器	椀455、皿21、器種不明42
土師器	羽釜56、皿106、蛸壺1、椀2、甕2、土錘1、器種不明144
瓦	軒丸瓦1、丸瓦5、平瓦7
須恵器	甕2
陶磁器	白磁碗2
金属製品	不明2
全く不明土製品片51	

表採遺物	瓦器椀4、陶磁器10、須恵質壺1、瓦1、骨1、金属製品2
------	------------------------------

※点数は接合前の破片（断片）の状態で計算







東円寺跡00-5区一括出土遺物について

瓦器

和泉型瓦器碗10~64の法量は、口径がおよそ14.0~16.0cm、器高は5.0~5.6cm、高台は断面が台形のものが全体の約52%、三角形が約48%で、断面が三角形の高台に退化する前の段階といえる。灰銀色に光る硬質なものが多い。皿は①4と5が口径約7cm、器高1.7cm程度、②6~9は口径約8.5~8.8cm、器高1.5~1.7cm程度、③1~3は口径約8.8~9.3cm、器高2.0~2.3cm程度と3種類が確認できる。すべての瓦器の見込みに平行文の暗文がある。

土師器

土師器の皿は2種で、①径約15.5cm、器高3cmの大型のものは赤褐色の色調を呈し、裏面に糸切り痕が明瞭に認められる。実測図番号70～73が該当する。②もう一つ76～86は「カワラケ」などと呼称される類で、径7.2～9.6cm程度、器高1.2～1.8cm程度とばらつきがある小皿である。羽釜は出土した羽釜の総てが土師質で、鍔部以上に段がないタイプである。土師質の蛸壺91は1個体だけであったが、縦長の砲弾形で、熊取町内で類似品の出土例がある。

瓦

今回出土した東円寺軒丸瓦88はこれまで出土した2種の範のうち、新しい方と考えられている簡略形の範の方である。一括出土の瓦器群の時期には東円寺は既に存在して、この軒丸瓦を用いていたとの推測ができるだろう。

平瓦75は1個体のもので、全体の7割程が残る比較的良好のものである。全体の湾曲が著しいのが最大の特徴といえる。下面の布目痕は摩耗のためか余り目立たない程度のものである。断面幅は最大で2.0cmとやや薄く、胎土には粗目の砂粒を多く含み、全体に粗雑な感がある。

陶磁器

白磁の碗が2個体分出土している。90は「太宰府条坊跡XV」で報告されているⅧ類-2と考えられる。直線的に立上る口縁、見込み釉剥ぎ、砂目跡などの特徴が著しい。同じく89は椀IV類と思われる。89は口縁の立上りが直線的で、玉縁は肉厚、胎土は粗目、釉は黄味を帶び貫入が観られる。おそらく12世紀代の所産だろう。

全国的に瓦器椀類と白磁片の共伴は珍しくもないが、町内ではこれらの共伴は特徴的で、非常に短期間に限定的に見られるいわば鍵層的なもの判断できる。共伴の瓦器は尾上編年でⅡ-2期頃のものに限定的に思われる。

小 結

残念ながら狭小な確認調査の調査区内では、柱穴や溝、土壤などの遺構は検出できなかつたが、東円寺跡00-5区の調査では予想に反して出土遺物の量が多く、瓦器群に混じって、東円寺軒丸瓦や平瓦、白磁の大きな破片が検出されたのは特筆される。00-5区付近が旧東円寺の中心地に割合近かったのではないか。

第12節 東円寺跡00-13区の調査

調査地 野田二丁目2412他4筆

調査期間 平成12年12月26日

位置と環境

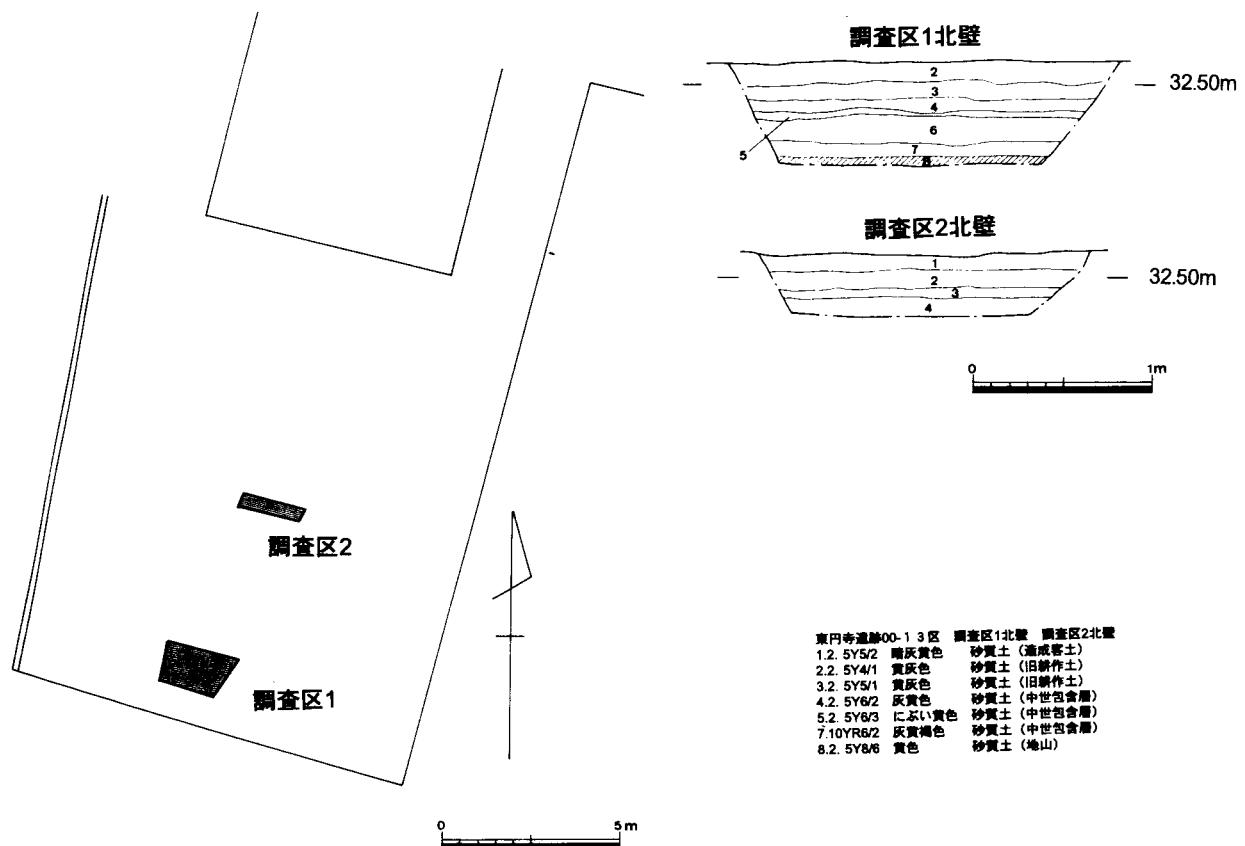
00-5区から西へ250m程の地点で、野田の集落の只中にある。現状で付近一帯には目立った起伏はない。周辺では度々確認調査が実施されているが、これといった遺構は確認されていない。

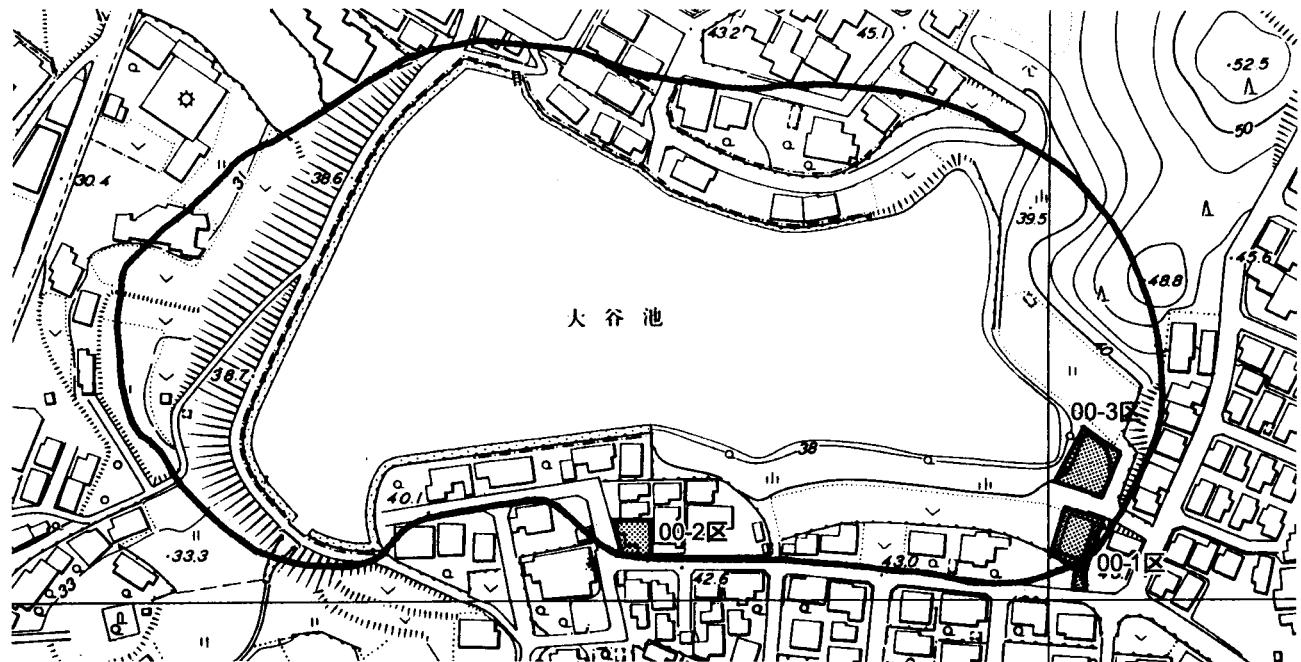
調査内容

調査区を2カ所設定して機会掘削による調査を実施し、図のとおりの壁面土層のデータを得た。目視による色調の相対的比較観察より、現地表面下-0.4m付近に中世期の層が存在していることが確認された。地山の黄褐色粘質土はGL下-0.7m以下である。調査区内では遺構・遺物を検出しなかった。

小 結

調査地点を含む周辺と同様、遺物を含まない中世の層が薄く存在している。また地山の黄褐色粘質土層の上面は中世に削平を受けていることも周辺の調査で得たデータどおりであった。





大谷池遺跡 調査地点位置図

大谷池遺跡について

東円寺跡のある野田から西北へ約1kmの低丘陵地帯に大谷池という約23ha程の池がある。町内の他の池と同様近世には農業用溜池として大いに利用された溜池であるが、かつて池岸の分布調査の際に須恵器が採取されたことがあると言われており、古窯跡が発見される可能性が指摘されている遺跡である。近年数回の確認調査を実施したが成果はあがっていない。

第13節 大谷池遺跡00-1区の調査

調査地 桜が丘二丁目16-3

調査期間 平成12年4月25日

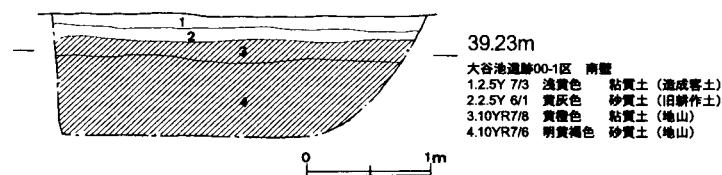
位置と環境

大谷池は西側を除いて他の沿岸部には低丘陵が迫っており、近年丘陵を切り開いて府営桜が丘住宅などの住宅地になっている。そのため水際は大幅な盛り土による造成をうけており、旧状を失っている。申請地は大谷池の東南岸に面しており、かつて造成され一戸建て住宅が建てられていた場所である。

調査内容

調査は個人住宅の建替え新築工事に伴うものである。申請地が狭小なため1ヶ所の調査区を設定し、機械掘削により実施した。

調査区の壁面では、地表から-0.2m以下に黄褐色粘質土の地山が確認された。地山の上面は既に大幅な削平をうけている。遺構・遺物は一切検出しなかった。



小 結

これまでの大谷池の池岸での調査と同様造成の盛り土層が確認された。これは池の岸辺付近に埋蔵文化財が存在していないことを示すものではなく、盛土層の下には先述の須恵器窯がある可能性もまだ残されているが、小規模の土木工事に伴う緊急調査では、それらを確認する成果は上げ難いだろう。

第14節 大谷池遺跡00-2区の調査

調 査 地 桜が丘二丁目19-3

調 査 期 間 平成12年8月21日

位置と環境

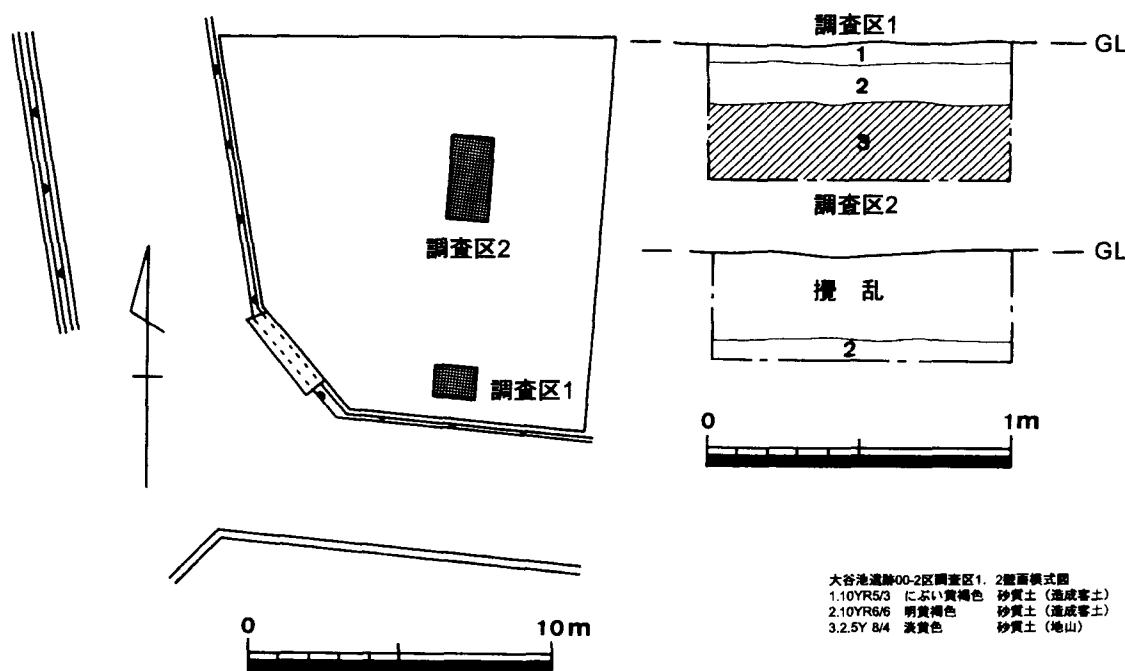
申請地は大谷池の南岸部分の低丘陵上にある。昭和40年代に丘陵を切り開いて営まれた府営桜が丘住宅の一角であるため、旧状を失っていると思われる。

調査内容

調査は個人住宅の建替え新築工事に伴うものであり、調査地に2ヶ所の調査区を設定し、人力掘削によって実施した。図のような調査区壁面図に示せるデータを得たが、埋蔵文化財は一切検出しなかった。

小 結

両調査区では大谷池岸における大幅盛土は見られず、削平された地山面が現地表面付近に検出されたことはあり驚きであった。過去の宅地開発で大幅な削平をうけているものと考えられる。00-2区付近は池岸の低丘陵部分だったのだろう。



第15節 大谷池遺跡00-3区の調査

調査地 桜が丘二丁目15の一部

調査期間 平成12年11月15日

位置と環境

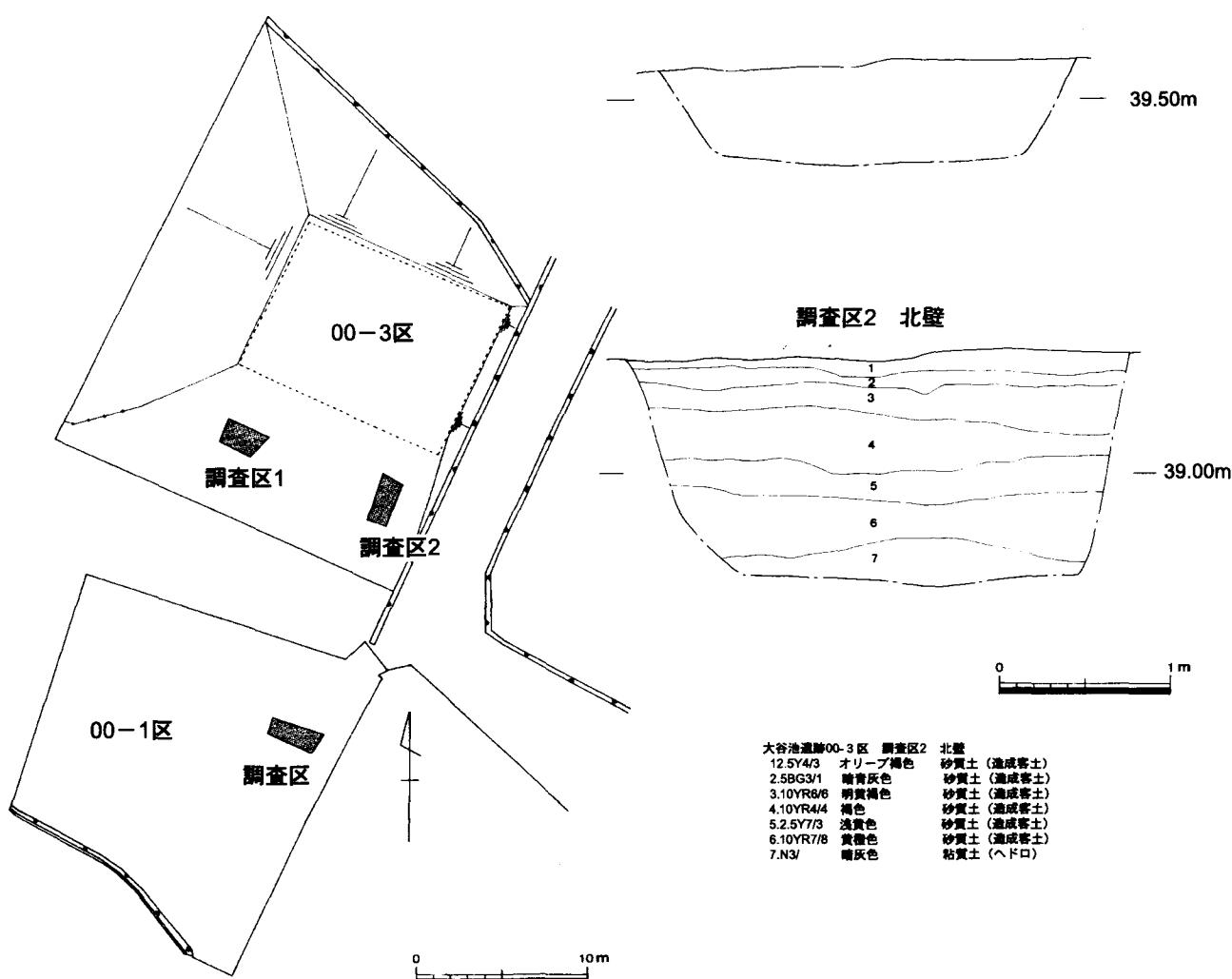
申請地は、農業用の細い道を隔てて先述の00-1区のすぐ北側に隣接している。大谷池の東南岸に直接面しており、かつて造成されて畠地になっている。

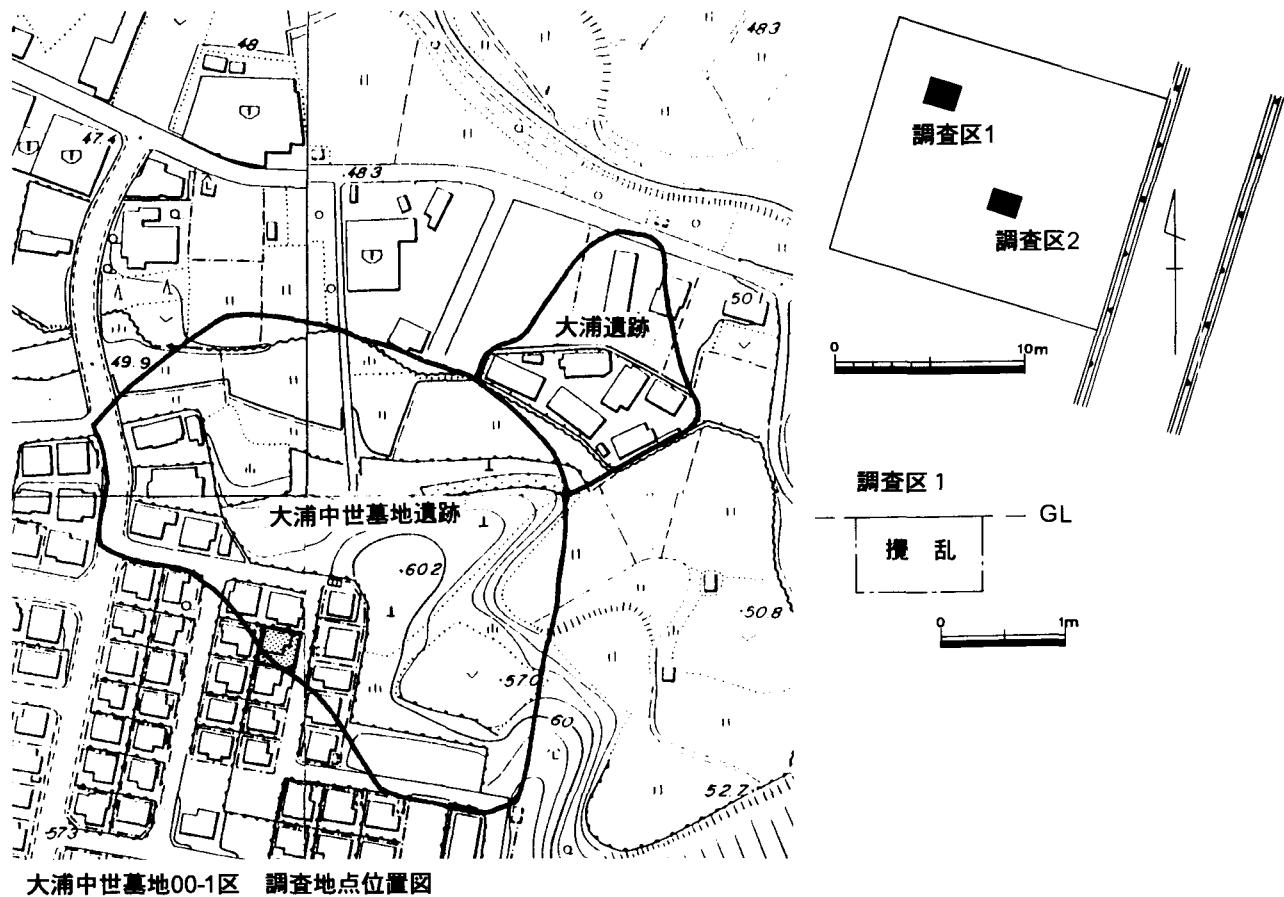
調査内容

調査は個人住宅の新築工事に伴うものであり、調査地に2ヶ所の調査区を設定して機械掘削による確認調査を実施した。両調査区とも同様で、GL下-1.4mまで掘削したが、造成時の大幅な盛土のみを確認した。埋蔵文化財を検出することはなかった。

小 結

まさに池岸の場所であり、従来いわれていた須恵器窯などの発見を期待したが、空振りだった。池岸は過去に大幅に盛土をして宅地としている。





大浦中世墓地00-1区 調査地点位置図

第16節 大浦中世墓地遺跡00-1区の調査

調査地 山の手台三丁目600-40

調査期間 平成12年7月31日

位置と環境

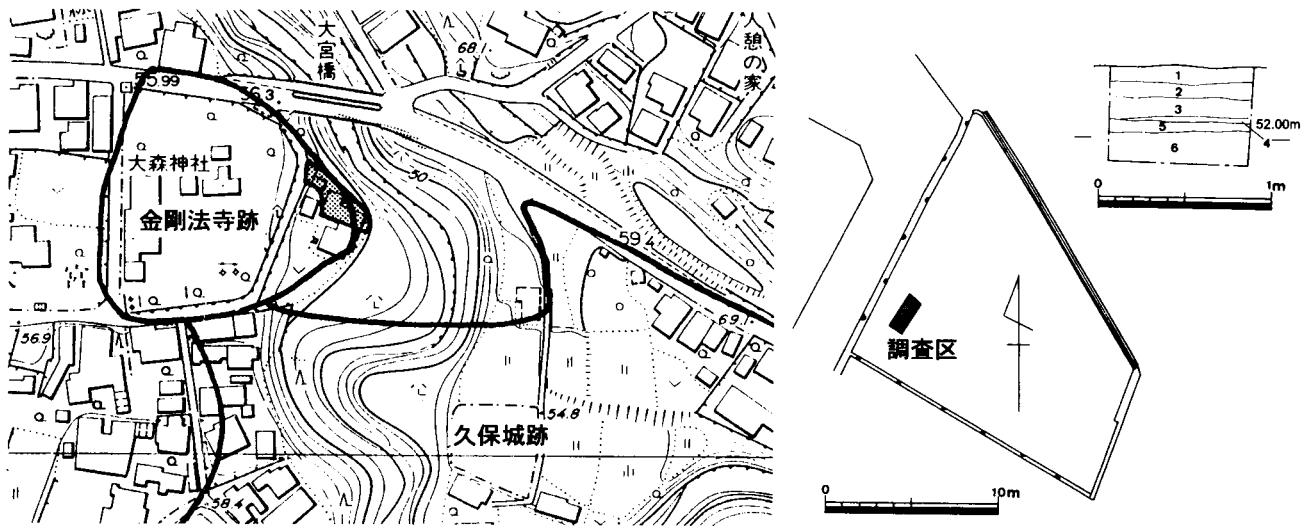
熊取町の中央部に大池という町内最大の池があるが、大浦中世墓地はその大池の北側にあり、図のように五門久保小谷線に面した南側低丘陵地域に現在もなお存在する大浦墓地の北側一帯である。平成元年の造成工事に伴う緊急調査で、享徳4年（1455年）の刻字のある五輪塔地輪や石仏が出土している。

調査内容

調査は2カ所の調査区を設定し、人力掘削により実施した。宅地の造成時に形成された盛土が見られたが、遺構・遺物は一切確認されなかった。

小 結

申請地の北側一帯に広がるものと考えられる大浦中世墓地につながる発見はなかった。しかし申請地付近に遺構・遺物がないと断定できるものではなく、現地表面下-2.0m程の掘削を伴う開発で調査を実施すれば、成果が望めるかもしれない。



金剛法寺跡00-1区 調査地点位置図

第17節 金剛法寺跡00-1区の調査

調査地 久保414-9,414-10,414-4の一部,414-1の一部

調査期間 平成12年10月10日

位置と環境

調査地点は熊取町で最も由緒のあるとされる大森神社のすぐ東側に隣接する宅地内に位置している。大森神社の東側には見出川が北流しており、申請地は河畔で、神社境内面からは5~6m程低位置にある。遺跡名にある金剛法寺は、中世より明治維新まで大森神社境内に存在していたとされる神宮寺である。残念ながら当寺は廃仏棄釈で完全に廃絶したといわれており、今となってはどのくらいの規模であったかなどはわからなくなってしまっている。

調査内容

調査区を設定し、機械掘削により実施した。宅地造成時に形成された盛土が約10cmあり、直下に耕作土らしい江戸時代の包含層がおよそ3層ある。さらにGL下-0.4m以下に多くの礫を含んだにぶい黄褐色の中世包含層が存在していることが確認できた。この層からは瓦破片の他土器片を検出した。遺構は発見されていない。

遺物

平瓦2、丸瓦2、土師質羽釜の頸部1、瓦器碗1、瓦器皿1、土師器皿1、白土器系皿2、土師質羽口1が検出された。いずれも細片であり図化には及ばない。

小結

採取された遺物はいずれも室町期の土器・瓦類であった。瓦器は本町遺跡群で頻見されるものと全く同類のものであった。特筆できるのは瓦であり、中世期には当地点に瓦を葺く建物があったことを示すものである。

金剛法寺跡00-1区 南壁	
1.10YR 4/1	灰褐色
2.2.5Y 6/1	黄灰色
3.10YR 5/3	にぶい黄褐色
4.床土	
5.7.5YR 6/8	橙色
6.10YR 5/4	にぶい黄褐色
	砂質土 (近世包含層)
	砂質土 (中世包含層)

第4章 まとめ

以上、朝代北遺跡、七山東遺跡、東円寺跡、大谷池遺跡、大浦中世墓地遺跡、金剛法寺跡の6遺跡17件の国庫補助事業に伴う発掘調査成果を報告した。

朝代北遺跡

朝代北遺跡は目下中世包含層のみ確認するに留まっている遺跡である。国庫補助対象となる個人住宅建設以外の民間開発にともなう数件の試掘調査でも中世遺物包含層を検出し、遺跡としての範囲は比較的大きなものとなっている。いずれ中世期の建物跡が検出されることになるだろう。

七山東遺跡

七山東遺跡の5件の調査のうち、00-1区～00-3区では、いずれも奈良時代中～後期の須恵器が検出され、昨年度七山で初めて遺跡として発見されたこの3件個人住宅を含む宅地造成時の発掘調査である七山東遺跡99-1区の調査につながる成果を挙げたが、やはり明瞭な遺構は検出できず、今後への課題を残した。また東へ少し離れた00-4区と00-5区は、近年大幅な盛土によって造成された場所であることが確認され、本来の地表面以下は現地表面よりも-3m以下に保存されているものと考えられる。個人住宅程度の小さな開発では本来の遺跡の状況を確認することはできなかった。

東円寺跡

広大な東円寺跡の範囲の中では5件の調査を実施した。このうち00-1区は、東円寺があったとされる熊取町役場前から隔たった地点のためか、包含層すら検出することはできなかつた。同じような場所の00-4区では中世の層が存在していることが確認できた。東円寺の中心地に近い00-5区の調査では東円寺軒丸瓦の破片や相当量の瓦器を検出する大きな成果を得た。この00-5区の調査は個人住宅建設に伴う簡易な確認調査ながら、実に大量の瓦器が出土し、さらに白磁や東円寺軒丸瓦といった遺物の検出をみたことなどから、東円寺に直接的に関係のある場所であったのか、その付近であったと推定できる。近年の調査成果等を総合すると、熊取町役場前よりも旧国道170号線に面するJA熊取支店の北側、野田集落の東端部分で、古代～中世期の瓦や瓦器、土師器類が濃密に出土している。東円寺はJA熊取支店の北側、熊取中央小学校の西側に中心的な施設があった可能性が高い。野田集落の只中の00-13区付近ではこれまで目立った遺構・遺物には恵まれていない。

大谷池遺跡

大谷池遺跡での3件の調査では、ここ数年の同遺跡での個人住宅建設に伴う小規模な確認調査の結果同様、包含層すら検出することはなかつた。池岸は既に大きく盛土造成されており、旧地表面を検出するには大きな掘削をしなければならない。

大浦中世墓地遺跡

大浦中世墓地遺跡での調査は、近年大幅な盛土をして造成された個人住宅の立替え工事に伴う確認調査であったため、成果を挙げることができなかった。

金剛法寺跡

金剛法寺は中世に大森神社境内に建立された寺院とされている。今回の確認調査で出土した遺物は、瓦器や土師器、瓦類であった。今回出土した瓦は室町時代頃のものであり、瓦を葺いた建物（おそらく寺院）が存在していたことが判明した。今後の調査でさらなる発見があることを期待したい。

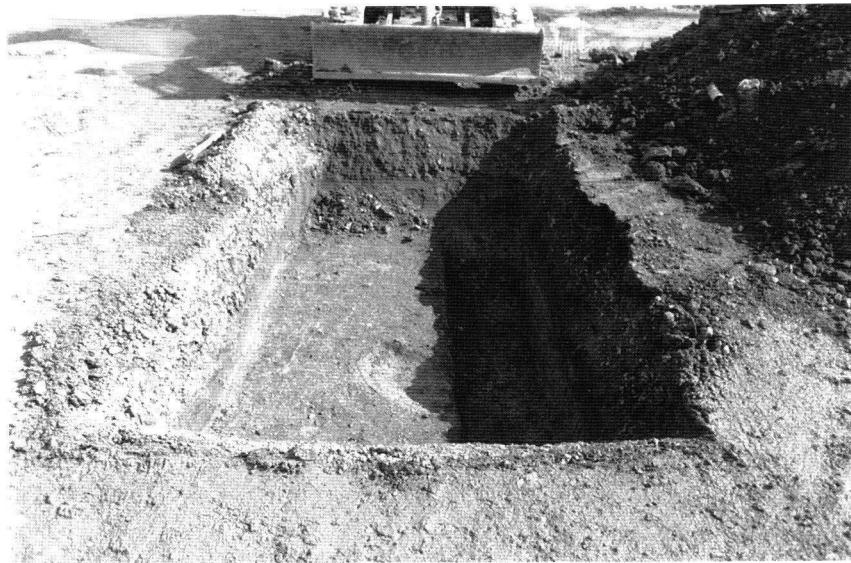
東円寺跡00-5区出土土器について

東円寺跡00-5区出土の瓦器椀は東円寺軒丸瓦瓦当片と一括出土しており、熊取町の中世および中世土器を研究する上で大きな指標となった。高台の断面は台形と三角形が半数ずつ、見込の暗文は平行文、口径は14.0~16.0cmである。西暦上およそ1150年前後から1200年までの間ではないかと考えている。一括遺物の中に明らかにこれ以降の土器は含まれていなかった。

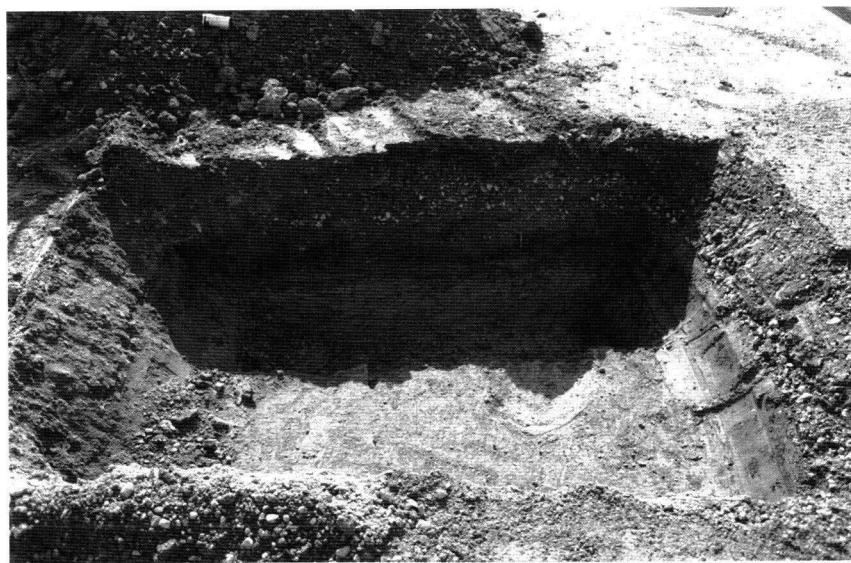
熊取町内出土瓦器では93年度（平成5年度）に久保での民間宅地開発において実施した試掘調査で出土した大量の土器群とほぼ同じ特徴を示しているばかりか、両者の間には差異が見られない。

- ①瓦器は高台が三角形で退化しているものと逆台形のものとが半数ずつ位存在している。
尾上編年II-2期頃に相当しており、見た目が全くよく似ている。
- ②土師質の羽釜の外形的特徴がほぼ同類（A類）で、口縁の外反が小さ目で、口縁に数段の段がある瓦質の羽釜（B類）が一切見られない。
- ③両方で白磁碗が出土している。今回の東円寺跡00-5区出土の白磁碗は2片で、90は直線的な口縁へかけての立ち上がり形態と大型の高台の断面形状、見込の釉剥などから、「太宰府条坊跡XV」における白磁碗IV類-2であると思われる。12世紀後半の年代が考えられる。93年の久保の試掘で出土した白磁碗は白磁碗IV類-2と考えられる。年代はやはり12世紀代が与えられる。これらより新しい時期の白磁や青磁類は検出をみていない。
- ④土師器皿がほぼ同類。

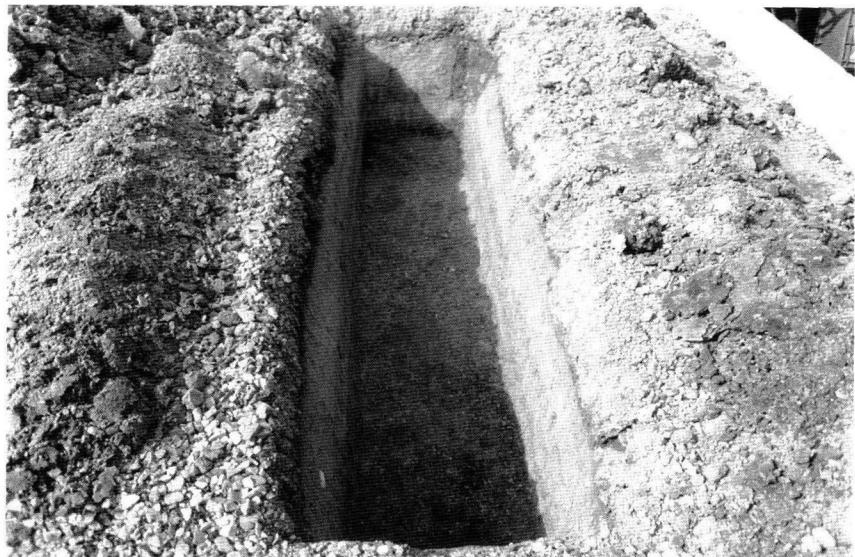
また両方とも出土遺物は短期間のみに限定される一括遺物であると考えられる。今回東円寺跡00-5区ではそれらの遺物とともに東円寺軒丸瓦が出土しているが、このことから両調査での一括出土遺物の比較によって東円寺には有力な相対年代が与えられたといえるだろう。久保の試掘では他に瓦質のこね鉢、瓦質の土錘、瓦質の甕、土師器皿と竜泉窯系青磁碗III-1などがあり、旧東円寺の年代に大きな指標となるだろう。



朝代北遺跡 99-6区 調査区全景



朝代北遺跡 99-6区 調査区壁面（南壁）



七山東遺跡 99-3区 調査区全景



七山東遺跡 99-3区 調査区壁面（南壁）

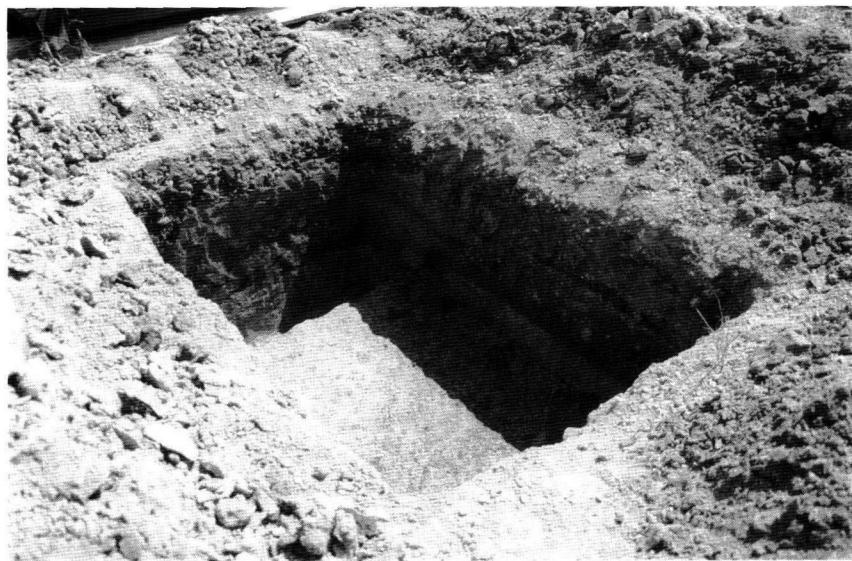


七山東遺跡 00-1区 調査区2全景



七山東遺跡 00-1区 調査区2壁面（北壁）

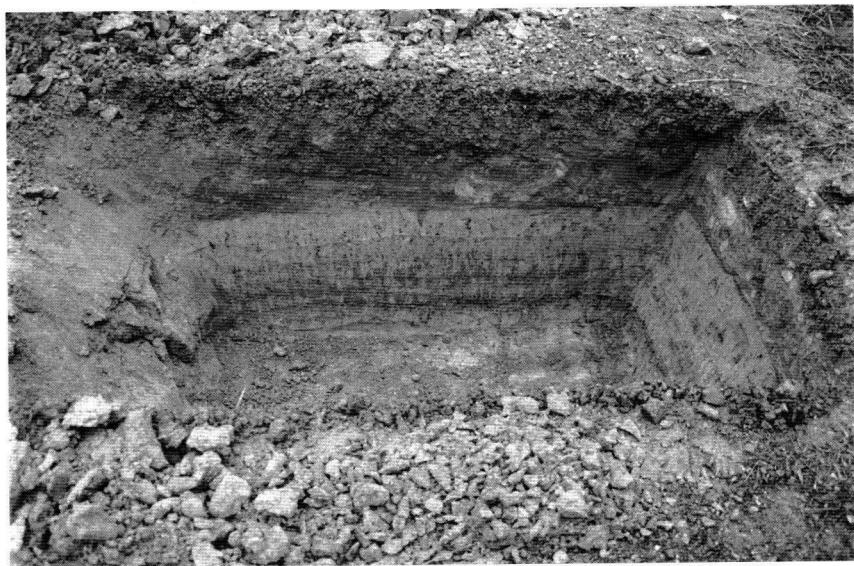
[写真図版四]



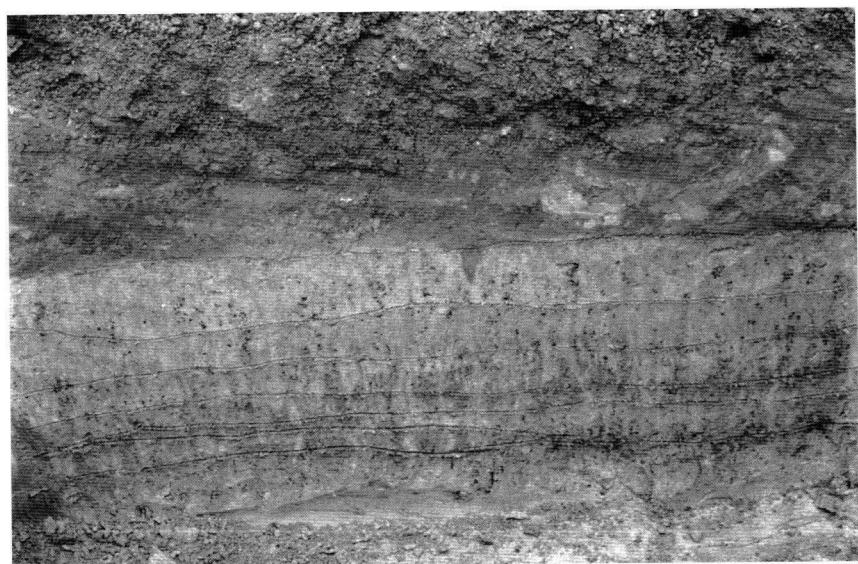
七山東遺跡 00-2区 調査区全景



七山東遺跡 00-2区 調査区壁面（北壁）



七山東遺跡 00-3区 調査区全景



七山東遺跡 00-3区 調査区壁面（西壁）



七山東遺跡 00-4区 調査区全景



七山東遺跡 00-4区 調査区壁面（南壁）



七山東遺跡 00-5 区 調査区全景



七山東遺跡 00-5 区 調査区壁面（東壁）

写真図版八



東円寺跡 00-1区 調査区全景



東円寺跡 00-1区 調査区壁面（北壁）



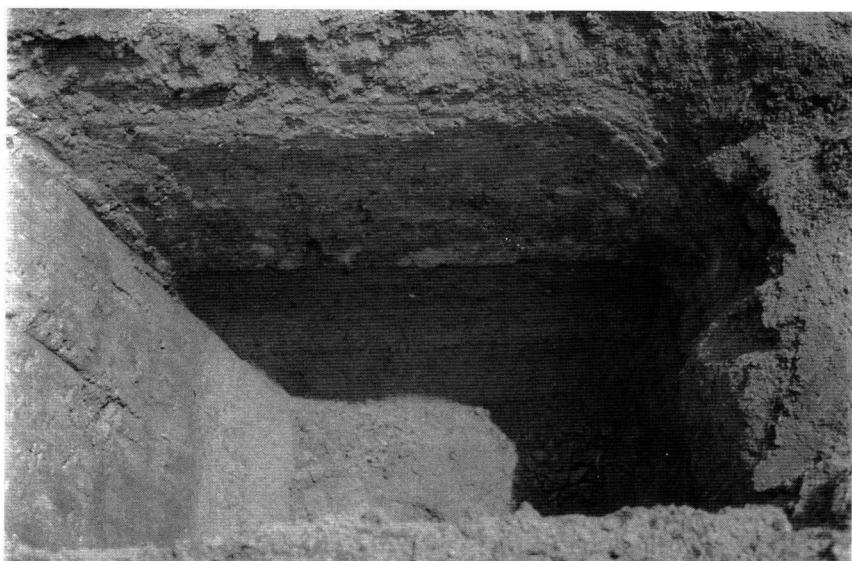
東円寺跡 00-2区 調査区2全景



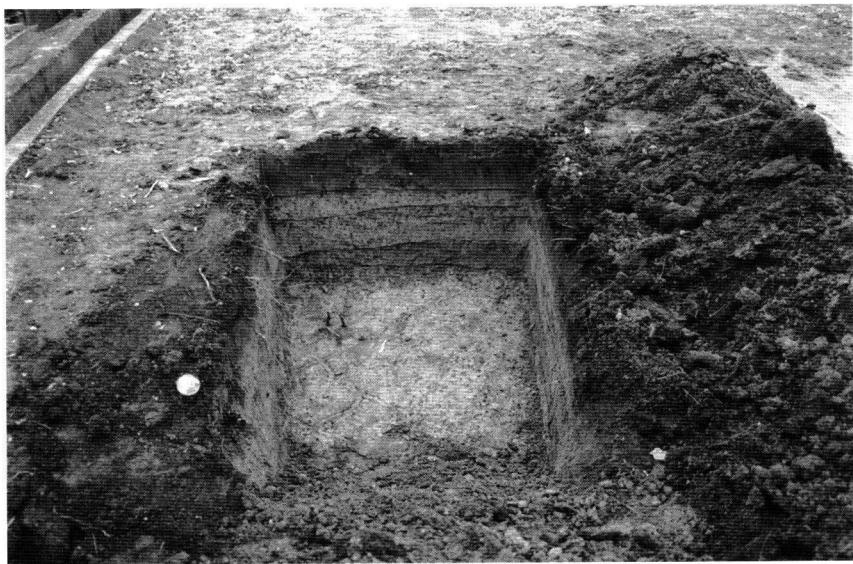
東円寺跡 00-2区 調査区2壁面（東壁）



東円寺跡 00-4 区 調査区全景



東円寺跡 00-4 区 調査区壁面（東壁）



東円寺跡 00-13区 調査区1全景



東円寺跡 00-13区 調査区1壁面（南壁）

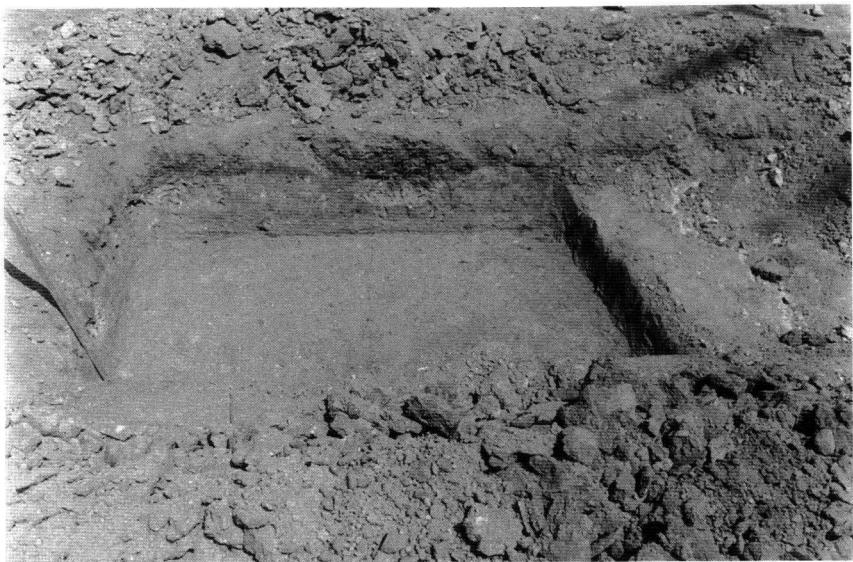
写真図版十二



大谷池遺跡 00-1区 調査区全景



大谷池遺跡 00-1区 調査区壁面（南壁）



大谷池遺跡 00-2区 調査区1全景



大谷池遺跡 00-2区 調査区1壁面（北壁）

写真図版十四



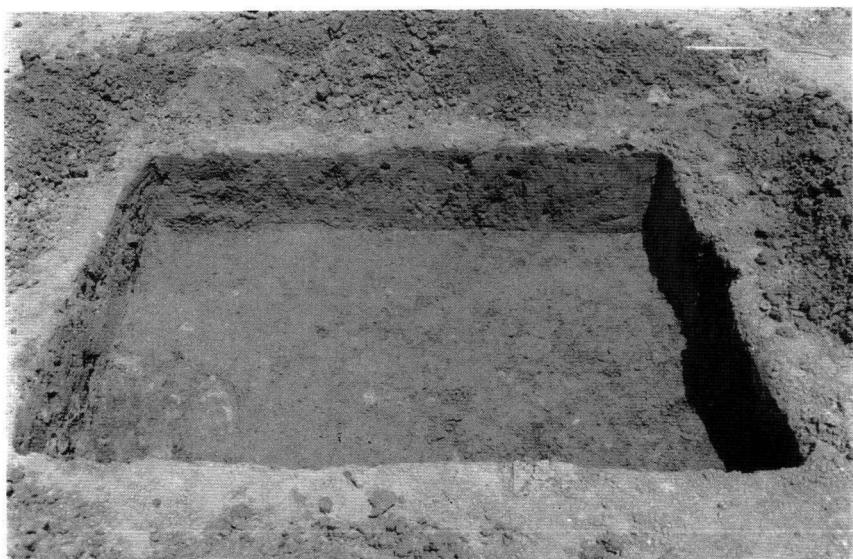
大谷池遺跡 00-3区 調査区全景



大谷池遺跡 00-3区 調査区壁面（北壁）

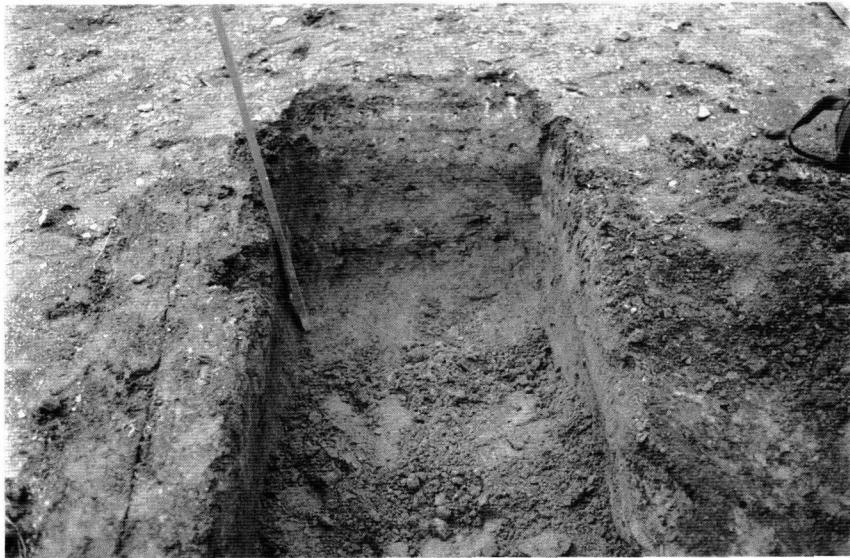


大浦中世墓地遺跡 00-1区 調査区全景



大浦中世墓地遺跡 00-1区 調査区壁面（東壁）

写真図版十六



金剛法寺跡 00-1区 調査区全景

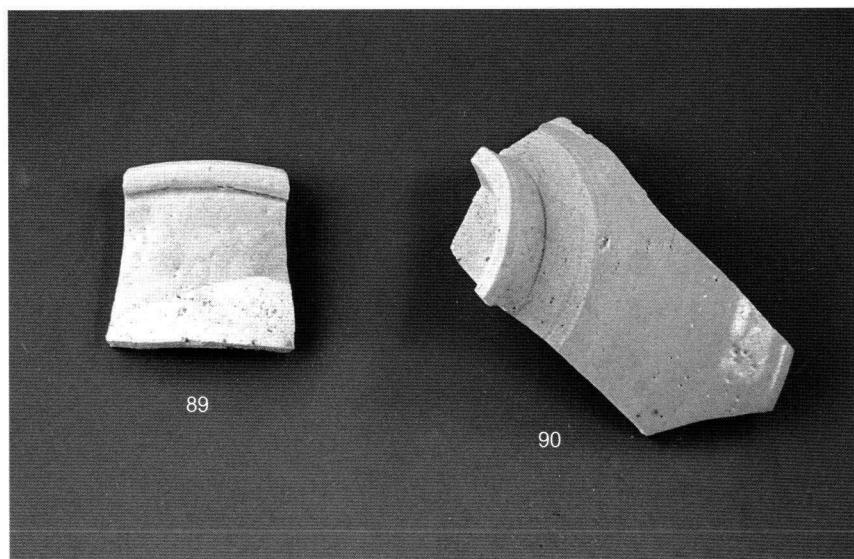


金剛法寺跡 00-1区 調査区壁面（南壁）



88

東円寺跡 00-5区 軒丸瓦



89

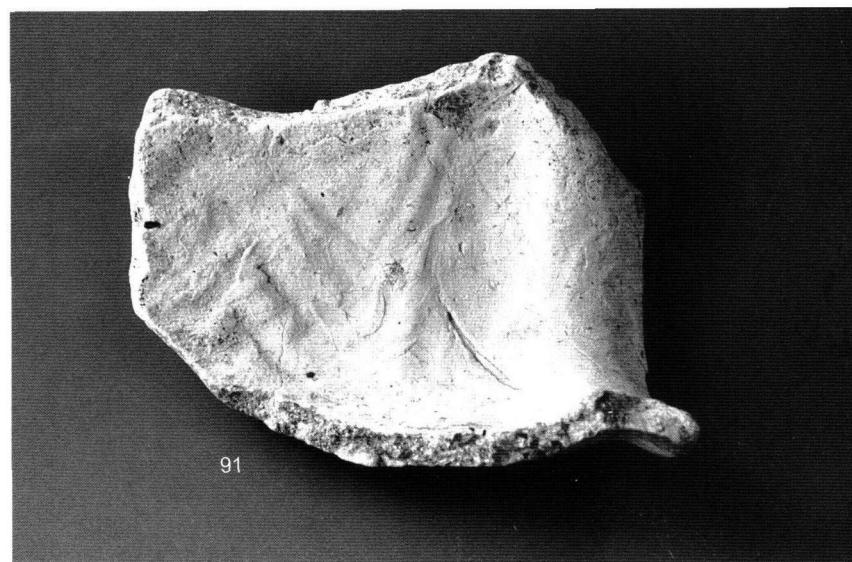
90

東円寺跡 00-5区 白磁

写真図版十八



東円寺跡 00-5区 羽釜

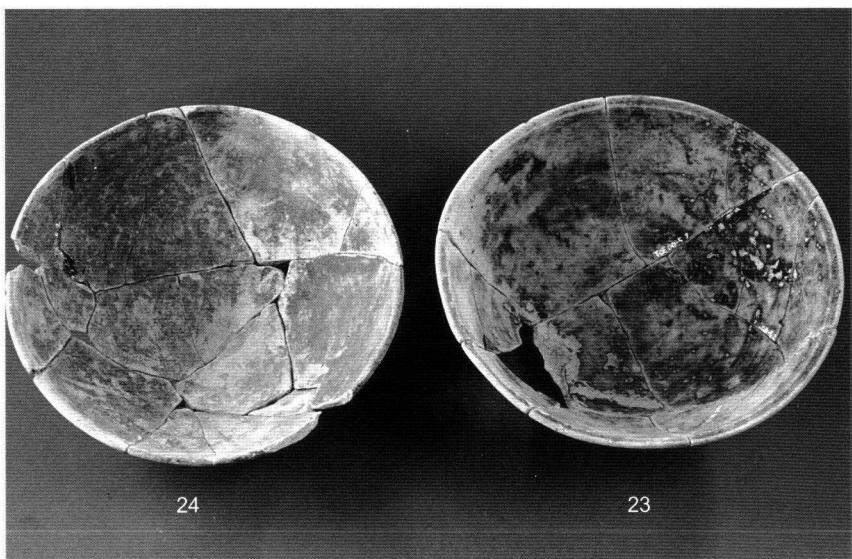


東円寺跡 00-5区 蜷壺

写真図版十九

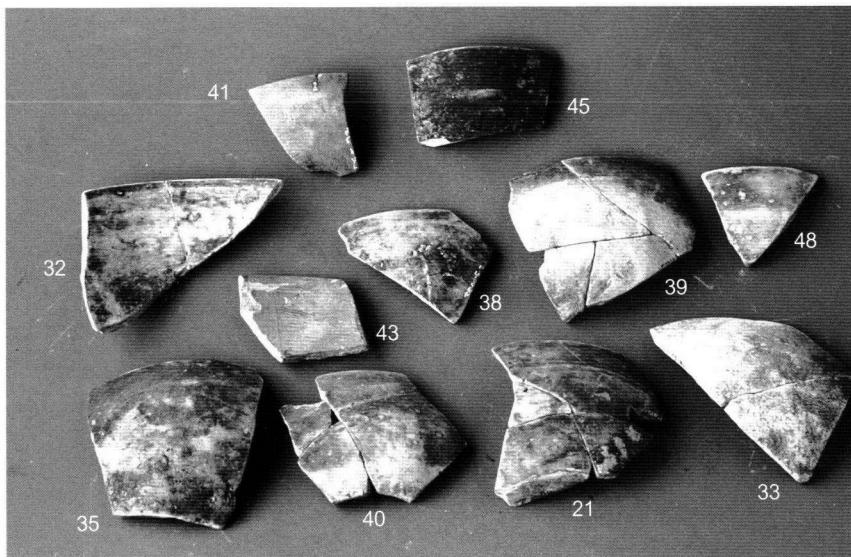


東円寺跡 00-5区 平瓦

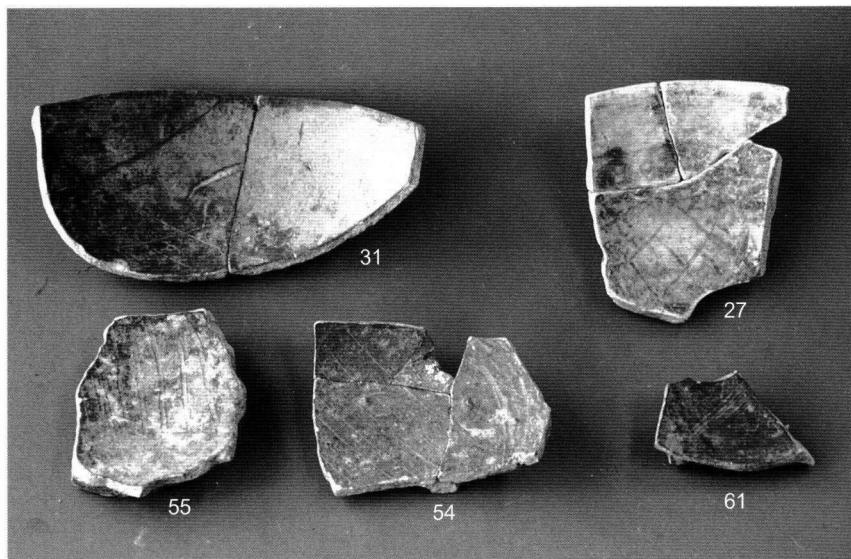


東円寺跡 00-5区 瓦器碗

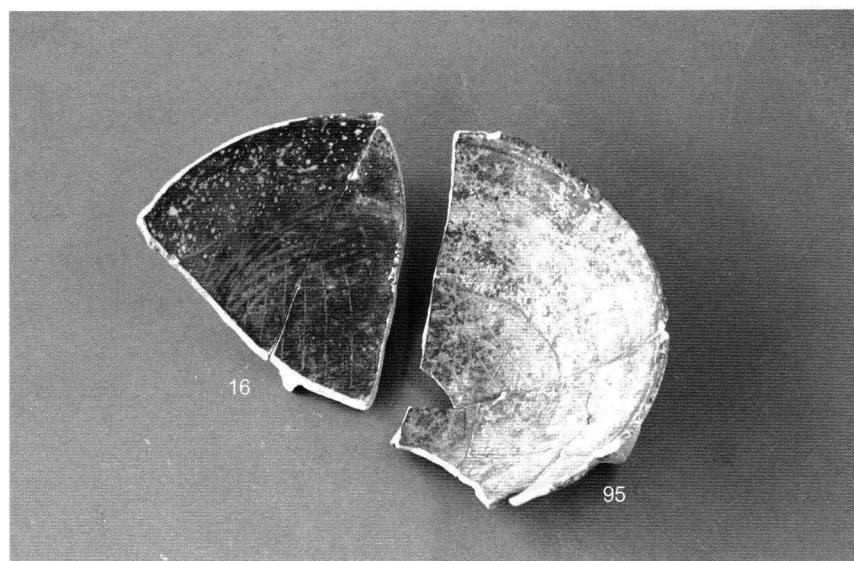
写真図版二十一



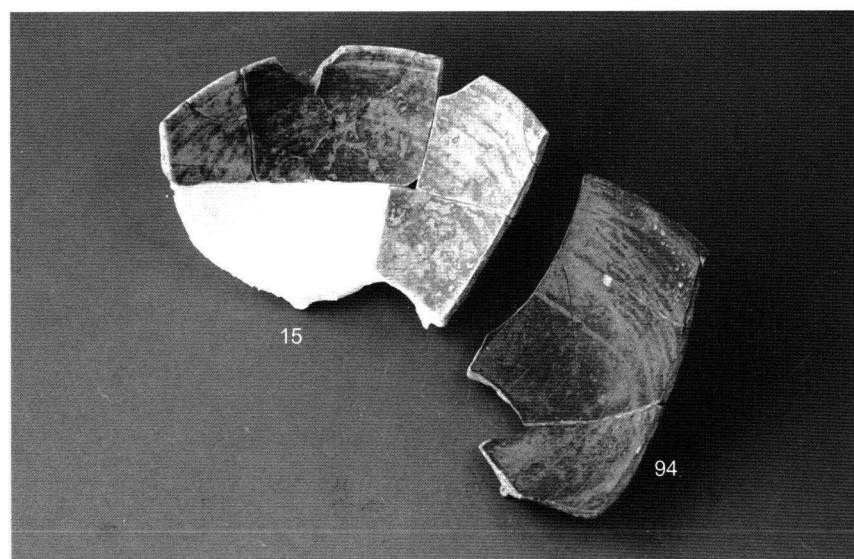
東円寺跡 00-5区 瓦器碗



東円寺跡 00-5区 瓦器碗



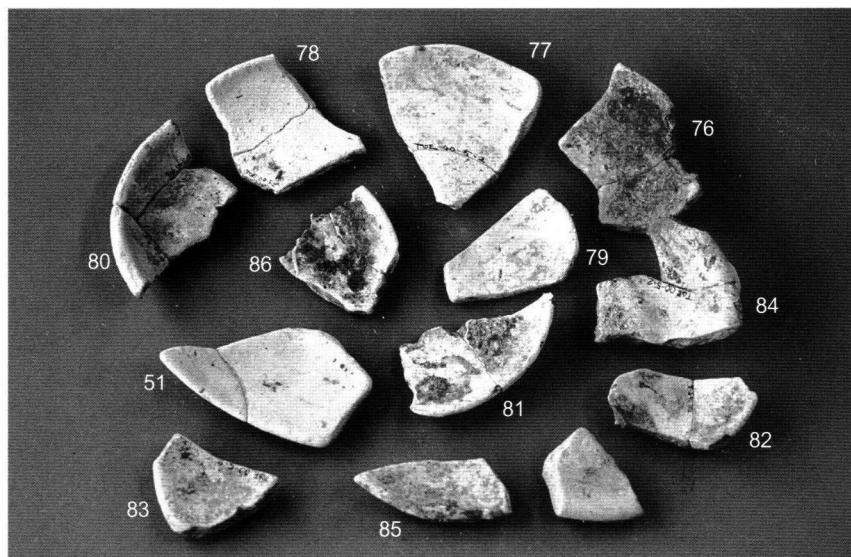
東円寺跡 00-5区 瓦器碗



東円寺跡 00-5区 瓦器碗



東円寺跡 00-5 区 瓦器皿



東円寺跡 00-5 区 土師質皿

報告書抄録

ふりがな	くまとりちょういせきぐんはくつちょうさがいようほうこくしょ							
書名	熊取町遺跡群発掘調査概要報告書							
卷次	XV							
シリーズ名	熊取町埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第36集							
編著者名	前川淳							
編集機関	熊取町教育委員会							
所在地	〒590-0495 大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号							
発行年月日	西暦年月日 3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯 度	東經 度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
あさしきさかじせき 朝代北遺跡 9.9-6区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうあさしきさかじせき 熊取町朝代東	27361	40	34° 23' 03"	135° 21' 17"	20000128 20000128	5.0	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 9.9-3区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 24"	135° 21' 54"	20000308 20000308	8.5	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 0.0-1区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 24"	135° 21' 54"	20000719 20000719	4.5	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 0.0-2区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 24"	135° 21' 54"	20000809 20000809	3.2	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 0.0-3区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 24"	135° 21' 54"	20001115 20001115	3.7	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 0.0-4区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 17"	135° 22' 03"	20001117 20001117	3.4	個人専用住宅建設
ちやまひがいせき 七山東遺跡 0.0-5区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやまひがい 熊取町七山東	27361	41	34° 24' 17"	135° 22' 03"	20001121 20001121	2.8	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 0.0-1区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやんや 熊取町紺屋	27361	6	34° 23' 59"	135° 21' 39"	20000421 20000421	5.6	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 0.0-2区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやんや 熊取町紺屋	27361	6	34° 23' 56"	135° 21' 20"	20000424 20000424	8.1	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 0.0-4区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうちやんや 熊取町紺屋	27361	6	34° 23' 57"	135° 21' 18"	20000518 20000518	3.4	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 0.0-5区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうのうだ 熊取町野田	27361	6	34° 23' 51"	135° 21' 21"	20000616 20000630	7.7	個人専用住宅建設
とうえんじあと 東円寺跡 9.9-13区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうのうだ 熊取町野田	27361	6	34° 23' 54"	135° 21' 16"	20001226 20001226	3.0	個人専用住宅建設
おおたにいけいせき 大谷池遺跡 0.0-1区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうさくらおか 熊取町桜が丘	27361	17	34° 24' 20"	135° 21' 10"	20000425 20000425	3.9	個人専用住宅建設
おおたにいけいせき 大谷池遺跡 0.0-2区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうさくらおか 熊取町桜が丘	27361	17	34° 24' 20"	135° 21' 05"	20000821 20000821	6.2	個人専用住宅建設
おおたにいけいせき 大谷池遺跡 0.0-3区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうさくらおか 熊取町桜が丘	27361	17	34° 24' 20"	135° 21' 10"	20001107 20001107	7.3	個人専用住宅建設
おおうちらちゅうせいばちいせき 大浦中世墓地遺跡 0.0-1区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうやまとい 熊取町山の手台	27361	14	34° 24' 20"	135° 21' 49"	20000731 20000731	4.5	個人専用住宅建設
こんごうほうじあと 金剛法寺跡 0.0-1区	おさかふせんなんぐん 大阪府泉南郡 くまとりちょうくぼ 熊取町久保	27361	21	34° 23' 40"	135° 22' 19"	20001010 20001010	3.5	個人専用住宅建設
所 有 道 路	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
朝代北遺跡 9.9-5区	散布地		なし	なし				
七山東遺跡 9.9-3区	散布地	奈良時代	なし	上飾器・須恵器				
七山東遺跡 0.0-1区	散布地	奈良時代	なし	上飾器・須恵器				
七山東遺跡 0.0-2区	散布地	奈良時代	なし	上飾器・須恵器				
七山東遺跡 0.0-3区	散布地	奈良時代	なし	上飾器・須恵器				
七山東遺跡 0.0-4区	散布地		なし	なし				
七山東遺跡 0.0-5区	散布地		なし	なし				
東円寺跡 0.0-1区	寺院跡		なし	なし				
東円寺跡 0.0-2区	寺院跡		なし	なし				
東円寺跡 0.0-4区	寺院跡		なし	なし				
東円寺跡 0.0-5区	寺院跡	平安時代末期～室町時代	なし	瓦・瓦器・土師器・陶磁器(白磁)				
東円寺跡 0.0-13区	寺院跡		なし	なし				
大谷池遺跡 0.0-1区	散布地		なし	なし				
大谷池遺跡 0.0-2区	散布地		なし	なし				
大谷池遺跡 0.0-3区	散布地		なし	なし				
大浦中世墓地遺跡 0.0-1区	墓地		なし	なし				
金剛法寺跡 0.0-1区	散布地	室町時代	なし	瓦・土師器				

熊取町埋蔵文化財調査報告第36集

熊取町遺跡群発掘調査概要報告書・XV

発行日 平成13年3月31日

編集・発行 熊取町教育委員会

大阪府泉南郡熊取町野田一丁目1番1号

印刷 泉南ムカイ精版印刷株